

# 森林防疫ニュース

(235)  
VOL. 11  
No. 9  
(No.126)

編集■発行／全国森林病虫獣害防除協会／東京都千代田区永田町1の14国立国会図書館内 1962. 9. 1 (月刊)

## マツノマダラカミキリ

撮影／長崎県総合  
農林センター／滝沢幸雄

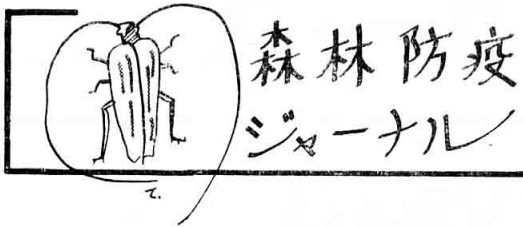
右は後食中の成虫、左は材部を  
食い荒らしている幼虫。本種は  
マツノトビイロカミキリと呼ば  
れていたが、最近ではマツノマダ  
ラカミキリに統一されつつある。



成虫の写真は1962年6月長崎県北高来郡高来町で、幼虫の写真は1961年10月長崎県福江市で撮影。

## 目 次

森林防疫ジャーナル.....	2
「被害報告」35年度版できる 栃木にも.....	
松くい虫駆除の大臣命令出る 森林防疫ニュース編集委総会ひらく	
山梨に疑似カラマツ先枯病？ 「先枯病」陳情続々 “シン16”は間違いか ヘリコプターでスギハムシ駆除	
一森林保護学者の欧米100日間見聞記(7).....	今関 六也 ... 4
ウラジロモミ幼苗の芽枯病.....	浜 武人 ... 10
被害速報.....	11



### 「被害報告」35年度版できる

林野庁が毎年編さんしている緑表紙の「森林有害動物被害調査報告」の昭和35年度版がこのほどでき上がった。同報告は、林野庁が昭和25年度から毎年営林局、都道府県に調査を依頼してその報告をとりまとめているもので、こんど出版された35年度版は、被害総括表をはじめ、針広別、人天別、加害形態別、年次別などにくわしく整理されたB5/310ページのもの。

それによると35年度の総被害面積は約69万ha、材積は約2,100万 $m^3$ 、本数にして約7億1千万本である。このうち昆虫の害が圧倒的に多く、面積、本数で73~75%、材積では98%をしめている。

また、加害動物の種類数は、樹病74種類、昆虫155種類、鳥獣11種類の多きに達し、新顔としてスギカミキリの加害によるものと判明した「スギのハチカミ」が島根県で60ha、7 $m^2$ 、110本、また「スギのバチクイ」が石川県で21ha、900 $m^2$ 、3,400本の二種が、35年度版から登場した。

### 山梨に疑似カラマツ先枯病?

カラマツ先枯病まん延のおりから、山梨県下の苗畑に“先枯病症状”を呈する苗木が発見され、心配されていたが、このほど林業試験場樹病研究室が送られてきた標本について精査した結果、病原菌は全く検出されなかった。同研究室では、標本の病変部には、灰色かび病菌とペスタロチア菌が検出されたが、今後いちじるしいこの病状の進展はないだろうといっている。

### 栃木県にも……

一方、栃木県矢板市長井の県有林でも7月下旬、8年生の幼齡樹10本にカラマツ先枯病と見られる病変が発見されたとの報告があり、目下標本を林業試験場に送って検査中である。

先枯病は、“土用芽”の出る夏から初秋にかけては特に被害にかかりやすく、また、ますます南進する傾向にあるので、既発生地に接するところでは厳重な警戒が望まれる。

### 「先枯病」の陳情が続々

北海道のカラマツ先枯病はことしの5月現在約2万6千haに達しているが、北海道林業経営協議会(会長=北海道林務部長=小林庸秀氏)は8月2日、林野庁はじめ政府関係当局に要旨次の陳情書を提出、善処を要望した。

①カラマツ先枯病を法定害虫に指定し、伐倒焼却、防除事業に対し全額国庫補助をされたい。

②法による伐採林分の再造林には、補償的見地から高額補助を考慮されたい。

なお、同趣旨の陳情は現在までに、北海道、岩手、長野など7件が林野庁に提出されている。

### 松くい虫駆除の大臣命令出る

農林省は8月7日、松くい虫被害の特にひどい岡山、鹿児島など下記6県の市町村を指定し、9月1日から10月5日までの間に伐倒、はく皮、焼却して駆除するよう森林病虫害等防除法に基づき農林大臣命令を発した。この駆除実行にたいしては、一定の損失補償金が交付される。

林野庁は毎年、被害発生のおさかな秋期冬期の2回、この地方にたいしては定期的に大臣命令を出し、松くい虫のぼく滅につとめている。

大臣命令の出た地域は次のとおり。

**岡山県** 和気郡和気町、三石町、吉永町、佐伯町、備前町及び日生町一円。赤磐郡吉井町、赤坂町、熊山町、山陽町及び瀬戸町一円。英田郡英田町一円。久米郡棚原町一円。

**佐賀県** 多久市、鳥栖市及び佐賀市一円。佐賀郡大和町及び富士村一円。小城郡小城町一円。神埼郡神埼町及び三田川村一円。三養基郡基山町、上峰村、北茂安村及び中原村一円。

**長崎県** 長崎市、諫早市、大村市及び島原市一円。東彼杵郡東彼杵町一円。西彼杵郡三和町、野母崎町、東長崎町、時津町、多良見村及び長与村一円。南高来郡国見町・愛野町、千々石町、小浜町、口之津町、加津佐町、南有馬町、有家町、深江町、西有家町、有明町、瑞穂村、吾妻村、南串山村、北有馬村及び布津村一円。北高来郡高来町、森山村、飯盛村及び小長井村一円。

**熊本県** 玉名市、荒尾市、山鹿市、菊池市、本渡市及び牛深市一円。玉名郡南関町、俗明村及び三加和村一円。鹿本郡菊鹿村及び鹿北村一円。天草郡天草町、松島町、河浦町、荅北町、五和町、有明町、竜ヶ岳町、倉岳町、大矢野町、新和町、姫戸町、栖本村及び御所浦村一円。

**宮崎県** 西都市、宮崎市及び小林市一円。児湯郡都農町、川南町、高鍋町、新富町及び木城村一円。東諸郡国富町、高岡町及び綾町一円。西諸郡野尻町、高原町、加久藤町、真幸町、飯野町及び須木村一円。宮崎郡清武町、佐土原町、田野町及び生目村一円。

**鹿児島県** 川内市、出水市、阿久根市、鹿児島市、鹿屋市、国分市、大口市及び垂水市一円。肝属郡串良町、

東串良町, 大根占町, 根占町, 吾平町, 高山町, 内之浦町, 佐多町及び田代町一円。嚙噬郡財部町, 末吉町, 大隅町, 輝北町, 松山町, 志布志町, 大崎町及び有明町一円。始良郡横川町, 牧園町, 霧島町, 隼人町, 加治木町, 始良町, 蒲生町, 福山町, 吉松町, 栗野町及び溝辺町一円。薩摩郡薩摩町, 高城町, 樋脇町, 入来町, 東郷町, 宮之城町, 祁答院町, 鶴田村, 里村, 上甕村, 下甕村及び鹿島村一円。伊佐郡菱刈町一円。出水郡高尾野町, 東町, 長島町及び野田村一円。鹿児島郡吉田村一円。



### “シシ16”は間違いか

昭和37年7月4日, 岡山県和気郡吉永町大字都留岐で, 一度に15頭のイノシシが捕獲柵(責任者同所藤原康彦さん)にかかった。けだし捕獲数の新記録である。親(3歳)3頭の平均体重は48.7kg, 仔(当歳)12頭の平均体重は5kgであった。

大量に捕獲する4日ほど前に, 数頭のイノシシが柵内にはいり, 誘導餌のジャガイモ20kgをペロリと平らげたまま入口が落ちず山に帰ったようすであったため, 大豆4ℓをまいておき効果を上げたものである。【写真は柵に落ちた15頭のイノシシ=岡山県和気農林事務所/田淵技師撮影】

### ヘリコプターでスギハムシ駆除

三重県では, スギハムシが大量発生している同県一志郡白山町大原と名賀郡青山町霧生の境界付近(塩見峠)の民有林26haにたいし, 7月21日午前10時から, ヘリコプターによるBHC3%粉剤の散布を行ない, 死虫率100%(散布24時間後)のよい成果を上げた。

このための経費は約10万円で, 経費負担は地元, 県, 国がそれぞれ大体6, 1, 3の割合で行なわれた。(詳細は11月号に発表の予定)

### ヤシの実にキクイゾウムシ

#### 《バックナンバー在庫あり》

本誌バックナンバーは在庫については, 多数の方からお申し込みをいただき, そのつどお送りしておりますが, なおいくら在庫がございますので, 入用の方はお申し越してください。1部30円(各号共通)。

申込先=東京都千代田区永田町1の14, 国立国会図書館内, 全国森林病虫獣害防除協会あて。

#### 《現在募集しているもの》

「事業の記録」は, 実際あなたが行なわれた事業

マラヤ産ココヤシの乾果や芽ヤシが栽培用として時々貨物で輸入されているが, 5月と6月に各1回ずつ約6t(約5,000個)のココヤシにキクイゾウムシの一種が寄生していて, 関係者の注意をひいた。

消毒に当たっては, すでに発芽して新葉が3~4枚現われているものから発芽したばかりのものまで, 各段階のものがあつたために葉害が心配され, その方法に苦心したが, メチールプロマイドを使用して48.94grs./1M<sup>2</sup> 4時間のくん蒸を行なった結果, 幼虫・蛹・成虫のいずれも完全に死んでおり, しかもヤシの地上部にはくん蒸後1カ月を経過しても, 葉害は現われなかった。

(横浜植物防疫情報第216号から)

### 森林防疫ニュース編集委総会ひらく

本誌編集委員会の総会は8月22日東京で開かれ, 林試, 林野庁, 防除協会の委員14名が出席, 今後の編集方針を決定。また毎月の編集企画は常任委員会を新設してそこで担当することを決め, 常任委員に, 林試から千葉修(樹病)山田房男(昆虫)池田真次郎(鳥獣), 林野庁から出川和市・平尾圭司(造林保護課)有馬純敏(業務課)の6氏を選任した。

のまとめであり, 反省です。写真や図もあつたら添えてください。そのほか「質問」「詳報」あるいは山でであったおもしろい出来ごと, 小さなことでも結構ですから, 手紙で友だちに知らせてやるつもりで, 気がるにお送りください。

「表紙写真」は必ずしも科学写真とは限っていませんから, “自慢”の作品をキャビネか四ツ切に伸ばして送って下さいませんか。

以上どれも, しめきりは特にありません。採用分には薄謝を用意しております。——新鮮なレポートでみずみずしい雑誌に——

送り先=同上協会内, 森林防疫編集事務局あて。

# 一森林保護学者の

## 欧米 100 日間見聞記 (7)

### 今 関 六 也

林業試験場保護部

#### 15. カナダ・アメリカにおける昆虫病理学の研究を見て：日本も天敵研究に本腰をすえるべきである

##### a. カナダの天敵研究には学ぶべきことが多い

農業林業を通じて、カナダは生物防除、すなわち天敵研究にひじょうに力をそそいでいる。この方面の研究の中心となっているのが、オンタリオ州のベルヴィルにある昆虫研究所と、ソー・サン・マリーの昆虫病理学研究所である。前者は別に生理的防除研究所ともよんでいる。そしてこれは農業省に、後者は林業省に所属する。私は前々のべたように、日程のつごうで、ベルヴィルを訪ねることができず、安松教授からいただいたせっかくの紹介状を無駄にしてしまったことは残念だった。

カナダの林業はこれまで外国から輸入された多くの病虫害が新しい土地にはいったばあいに、しばしば恐るべき蔓延被害を示すことは周知のとおりである。それは土着の生物が外来の害敵に対して、体質的にまた社会的に抵抗力がなく、無防備である場合が多いからである。

だから、各国とも輸入持物の検疫をきびしくするわけであるが、いったん侵入をゆるし、特に広大な森林に蔓延を許してしまった病虫害に対しては、薬剤散布のような姑息な手段では、とうていおさえられるものではなくてなってしまう。そこで、根本的な対策として、森林の体質改善ということに眼がむけられるのである。

この研究は、広くいえば病虫害の生態的研究であってその一つの角度として天敵研究がある。カナダの農林業が天敵昆虫と天敵微生物の研究を特に重視し、ベルヴィルおよびソー・サン・マリーに2大研究所をつくり、きわめて活潑な研究を進めていることは、科学的思索の当然の帰結であるとはいえるが、現実的通念からみると異例とも考えられ、カナダ政府の科学的態度に敬意を表したい。とくに昆虫病理学研究所が微生物的防除 microbial control のような名をつけなかったことも、私としては高く評価したい気持である。

カナダという国が、どの程度に高い文化をもち科学的教養がどの程度まで高いかは知らない。一見すると、アメリカなどに比べて遙かに田舎くさく、進歩的な若々しさも感じられない。むしろ、天然資源に恵まれ、人口は少なく、一方においては多くの失業者をかかえているそうであるが、一般になんとなくのんびりした国柄のようにも見られるのである。

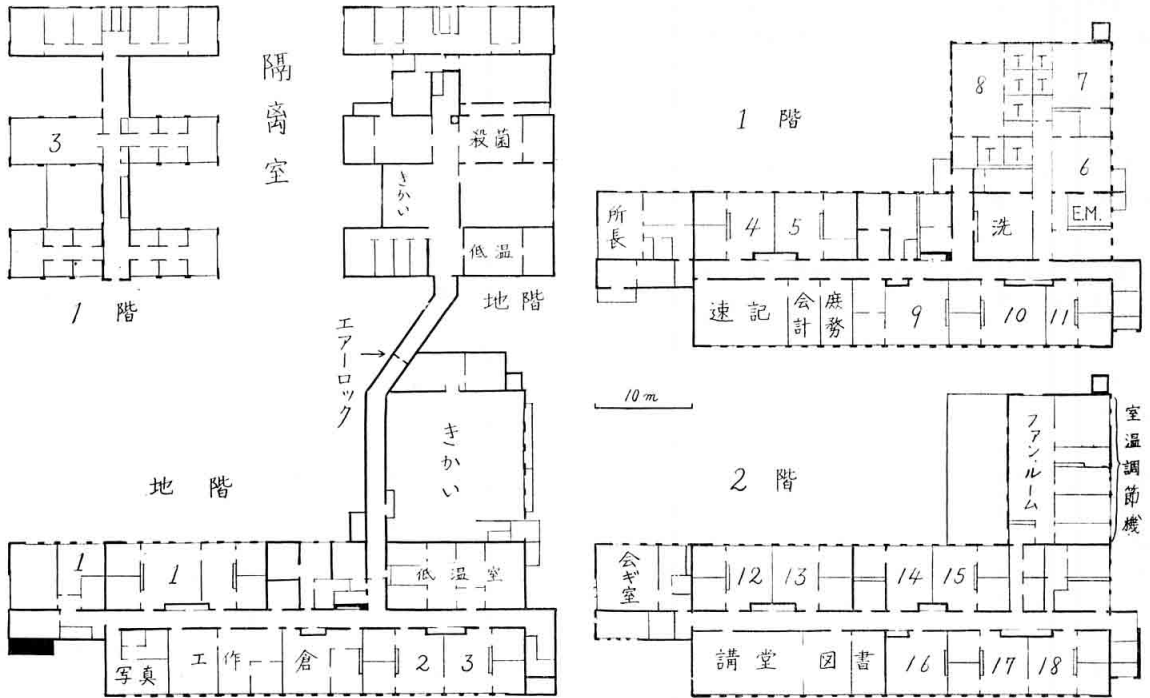
しかし、農林業における病虫害の研究体制だけを見ると、カナダが科学とか基礎研究をいかにも重視している国であるように理解される。体制を整備するだけでなく国外の優秀な研究者を招聘し、研究者の水準を高めるためにきわめて熱心である。

しかし、これらが単に欧米におくれをとらないためにとか、ただ病虫害の被害が大きいからとかで、研究を重視するのならば、研究にバックボーンははいらないし、またこれだけの研究体制はとれないであろう。そこには深い科学的精神が根底になければならないのである。カナダの病虫害研究で、サーヴェーの仕事、昆虫や菌の分類学的研究、病虫害の生態学的研究とか天敵昆虫や昆虫病理学の研究など、応用生物学としての農林業にきわめて重要な基礎生物学の研究に、おしめない投資をしているということは、一見のんびりしているかに見えるカナダでも、とくに政治、産業、文化の指導的立場にある人たちが、深い科学的精神を身につけているからと考えたくなるのである。ほかの国ではここまで組織的にはなっていない。

私はカナダを誉めすぎたかも知れない。しかし、私の



1 図 オンタリオ州ベルヴィルにある昆虫学研究所 (生物的防除研究所)



2 図 ベルヴィルの昆虫学研究所平面図

判断に誤まりがないとするならば、カナダ人がどうしてそのような科学的精神を、身につけるに至ったかについて、深く追及していきたいのであるが、そこまでは判らなかつた。われわれが外国を見、これを他山の石とするとしても、ただ形だけを学ぶのでは、だめである。良きにつけ、悪しきにつけ、その本質根源を見きわめることが必要である。私のとなえる生態的防除論は、病虫害防除のためだけの基礎理念ではないからである。

話は脱線しすぎたようであるが、これも印象記であるから、ご勘弁願いたい。

さて、ベルヴィルやソー・サン・マリーでどのような研究が行なわれているかについては、Canadian Journal of Entomology とか Journal of Insect Pathology を見ていただければ判ることであるし、これを具体的に紹介することは私の任ではない。

それよりも、これらの研究所が、どのような規模、どのような施設を具えているかをご紹介するほうが、参考になるのではないかと思うので、まずベルヴィルの建物の平面図をのせて見よう。将来、農林省の研究機関の移転集結などが実現する際、新しい研究所の設計には参考になるものと考えられるからであるし、またこれによって、カナダ政府の力のいれ方も判るであろうからである。

b. ベルヴィルの昆虫研究所 Laboratory of Entomology (Biological Control Investigations), Belleville, Ontario.

この研究所は、生物的防除の研究所として世界随一のものであろう。本館は地下1階、地上2階で延約 1,200 坪、別館の隔離室は地下1、地上1階、延約 400 坪の規模である。その他に温室、圃場などがあることはいうまでもない。内部施設としては、各種の近代的研究用器具機械はもちろん、きわめて多数の低温恒温室、微生物培養室、冷凍室、凍結培養保存室、木工工ガラス工作室などがそろっている。

研究室(実験室)は平面図の1~18の番号をつけた室で、それらは放射線(1)、雑草の生物的駆除(2)、森林昆虫(3, 10)、作物、蔬菜の害虫(4, 5)、ウイルス学(6)、菌学(7)、細菌学(8)、果樹害虫(9)、医昆虫(11)、遺伝(12)、生態(13)、発生(14)、解剖(15)分類同定(16)、生理(17)、生化学(18)のように分かれ、それぞれが別館その他に飼育室をもっている。

別館の隔離室は、大部分が飼育室(ほぼ40室)で、いずれもエア・コンディショニングされている。ここでは海外から輸入した天敵、害虫、天敵の2次寄生性昆虫などについて飼育試験が行なわれ、カナダへの適応性、有効性などがテストされるのであるが、それがきまるまでは、万一外に逃げ出すようなことがあれば危険なので、絶対に外に逸出しないようにくふうされている。

森林昆虫の天敵昆虫はここで研究され、大きな部分を占めているが、昆虫病理関係は前記のように、ソー・サン・マリーに独立研究所がある。ここでの昆虫病理研究は農業害虫関係だけである。

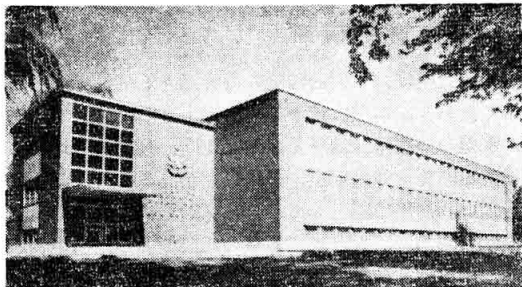
建物と組織は以上のものであるが、研究員は独立研究員として33名。これらの研究者は天敵関係の研究を専門に行なっているもので、これにソー・サン・マリーの昆虫病理研究所および各州の病理・昆虫研究所に配置されている研究者を加えると数十名に達するであろう。天敵研究を専攻する研究者がかくも多いということは、われわれにとっては驚くべきことで、カナダの農林業がいかに力をいれているかが理解される。

c. ソー・サン・マリーの昆虫病理研究所 Laboratory of Insect Pathology, Sault Ste. Marie, Ontario.

この研究所もカナダ自慢のものである。今から12年前の1950年に創立された。昆虫の病原微生物を天敵として利用しようというアイデアは、100年以上も昔から着目されたことであるが、これまでに行なわれた数々の実験はほとんど失敗のくり返しであった。

しかし、自然界では猛威をふるいつつあった害虫が伝染病の大流行によって一挙に死滅するという興味ある現象がつねに見られるのである。そこに、われわれが解きほぐさなければならない、生物社会の秘密があるのである。

従来失敗の原因が、昆虫病理学および流行病学の基



3 図 オンタリオ州ソー・サン・マリーにある昆虫病理学研究所

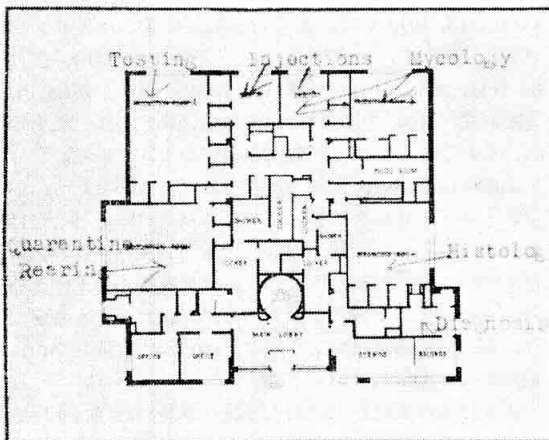
礎的研究なしに、直ちに百姓実験に着手したことにあることに着目し、害虫の微生物的防除の基礎となる昆虫病理学の研究を強力にはじめるに至ったカナダの研究行政に敬意を表したい。

11月17日雪のふる午後、竹内博士の案内で町はずれにある昆虫病理研究所を訪ねた。所長の J. M. Cameron 博士も、ヨーロッパから輸入したウイルス病でオウシュウキハバチを美事におさえたという功績のある F. T. Bird 博士もあいにく不在であった。菌類病の D. M. MacLeod や血清学的研究を行なっている J. Krywienczyk 女史、ウイルスの生化学的研究をしている P. Faulkner らに会った。ここの研究所の研究はひじょうに活潑で、カナダ昆虫学雑誌や昆虫病理学雑誌などに次々に発表されているが、前にものべたように研究の傾向が、アカデミックになりすぎているように感じられたので、バード博士またはカメロン所長に、研究の方針などについて聞いて見たかったが、会えないで残念だった。

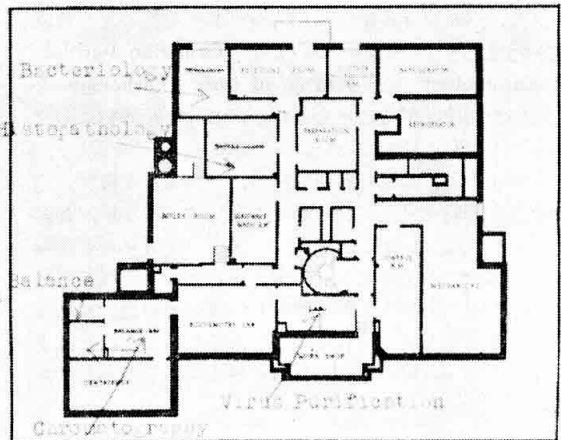
私は前に基礎研究の重要性を強調したが、それは必ずしもアカデミックな研究、すなわち基礎研究と名づけられるならば何でもよいという意味ではなくて、最近の言葉でいえば、目的基礎研究ということである。これなくしては、農林業の技術に科学性は失われるであろう。また研究者としても、真理を迫及しつつ、しかもその研究が直接に農林業に寄与するという生き甲斐を感じることができないのである。

この意味においても、ソー・サン・マリーの研究は少し実験室に閉じこもりすぎ、観念的基礎研究におちいる傾向があるのではないかと気になったのである。ただしこれは私の学問の浅さがそのように感じさせたのかもしれない。

研究所の建物は決して大きくない。地上1階、地下1階、延400坪くらいかと思うが、内部はきわめて複雑に設計され、八幡のやぶに入った感じがする。凝りに凝



Plan of the main floor of the Laboratory.



Plan of the basement floor of the Laboratory.

4 図 昆虫病理学研究所の平面図 左が1階、右は地階

た設計である。

どの室も各種の病原菌をとり扱っているのに、空気を清浄化し、菌の混入をふせぐ意味で、細かいところまで心が配られている。たとえば研究室に入る空気は濾過装置、殺菌光線などで消毒され、空気は所内を循環させることなく各室から直ちに外に排気される。各室の入口のドアは2重になっており、一方がしまらなければ次は開かないようになっており、廊下の空気が室に入らないように工夫されている。各室には培養、飼育の小さな室が付属しているが、その扉の開閉は自動的であり、また内外の通話の壁の中にしまれたアルミの振動盤を通して行なわれる。

実験用の器具・機械は最新式のものを取りそろえ、温湿度を細かく調節できる飼育・培養施設も各研究室にもうけられ、ウイルス病、細菌病、微粒子病、菌類病の病原学的、病理学的、生化学的……血清学的研究が思うように出来るようになってきている。独立研究者は所長以下11人で、そのうち9人は学位をもっている。これだけの研究員をそろえている昆虫病理研究所は他の国にもないであろう。設備はともかく、規模においては、少なくとも現在は群を抜いている。

なお、この研究所は林業省に所属しているのに、主に森林害虫を対象としているが、農業害虫についてはベルヴィルに研究室がある。

研究所にいた時間は3時間ほどであったが、オタワからわざわざ飛んできた甲斐があった。いろいろとお世話になった竹内博士に心から御礼を申上げる。

#### d. カリフォルニア大学にSteinhaus教授をたずねる：遠大な計画

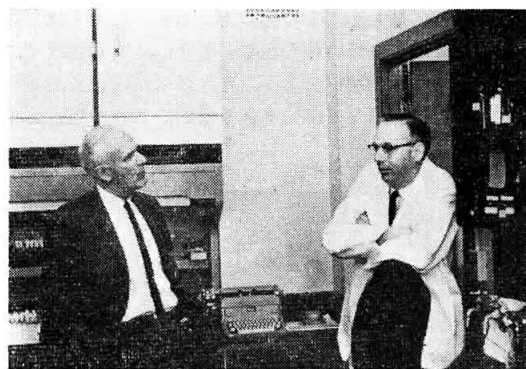
カナダの病虫害研究は農林省を中心に組織化されているのに対し、アメリカには、有力な大学が各地にあるので、農林省の研究体制は必ずしも十分であるとはいえないようである。もっとも、アメリカは大きな国で、組織も複雑であり、アメリカの一角をなでたぐらいでは、全貌を理解することはできない。

農林省の天敵研究の中心はカリフォルニア州のリバースサイドにある。私はここも訪ねることができなかった。私が訪ねたのは、カリフォルニア大学の昆虫病理学部、オレゴン大学構内にある森林生物研究所だけである。このていどの見聞でアメリカの天敵微生物すなわち昆虫病理研究についてのべるのはおこがましいが、若干の印象をのべて見たい。

12月5日午後、パークレーにある太平洋岸西南部林業試験場の病理部長 H. R. Offord 博士に案内されてカリフォルニア大学に Prof. E. A. Steinhaus を訪ねた。Steinhaus はいうまでもなく、昆虫病理の世界的権威である。この研究の意義が、その重要性にもかかわらず一般にほとんど認められていない時に、カ州大学に Dept. of Insect Pathology すなわち昆虫病理学を創設した

見識と手腕は見上げたものといわねばならない。

教授は1960年の秋に日本に約1カ月滞在された。私はその時は会う機会を逸したが、かつて教授の著書昆虫病理学を興味深く読んだこともあり、また1960年来、Journal of Insect Pathology を創刊し、この学問のた



5 図 Steinhaus 教授 (右) と Offord 博士 (S 教授の研究室)

め八面六臂の活躍をしておられることに敬服し、私の旅行の最後のコースにサンフランシスコを選び、Steinhaus 教授に会うことを予定していたのである。

すでに安松教授からの紹介状を送っており、また電話で連絡をとってあったので、S 教授は、快く迎えてくれた。1960年日本に来た時の好印象のせいもあったであろうが、それは日本でうけた歓待だけでなく、日本の昆虫病理学を高く評価されたからでもある。S 教授は6尺豊かの偉丈夫、眉目端麗、才気煥発といった快男子である。さすがに独創的な昆虫病理学を創立した人物であるとの印象をうけた。

彼は私に、今度の旅行の目的をたずねた。私は幾つかの目的をのべ、最後に“天敵昆虫の研究は多くの昆虫学者が関心をもつが、微生物利用についての一般的認識は必ずしも深いとはいえないと思う。この研究はS教授もいわれるように昆虫病理学という研究を土台として発展させなければならない。私はこれに全く同感でありその意味において、われわれの試験場にもできるだけ早く昆虫病理研究室をつくりたいと思っている。とくにこの研究は森林害虫に対して重要であるからである。それで研究室を作るための参考として、フランス、カナダの研究所を歴訪、最後に貴方の所へ来たのである”と、のべ、さらに長谷川孝三博士によってはじめられた、林業試験場における、この研究の伝統と仕事をPRし、今後の協力を依頼した。

S 教授は“それはワンドフルだ”といい、さらに“自分は日本へ行って、昆虫病理学の研究が非常に進んでいるのを知った。おそらく研究者の数は世界でも第一級ではないだろうか。思わぬ人が思わぬことまですでに研究しているのに驚いた。ただし、日本人はひじょうに謙そ

ん家なので、自分から進んで発表してくれない。ここは加州で、日本語が読める人が多く、日本語の文献を読むのに不自由はないから、どんな論文でも送ってほしい”と、日本人の業績をほめたたえていた。彼の書棚には日本語の文献が多数ならべてあった。

日本人がつつましく謙虚であるとは、非常に好意的な見方である。たしかにその通りであるが、日本人ほど語学下手なものも少ないのである。書きたくても書けず、話したくても話せないことが、そうさせた場合もあるので、すべてが謙虚なせいでもあるまい。ここでも、日本



6 図 タナダ博士(左)とオッフオード博士(加州大学農場で)

の学者が日本にとじこもってはいけなことを痛感した。

しかし、いずれにしても、養蚕学の発達、蚕体病理学の研究から、昆虫病理学の基礎研究がすすんでいることは日本独特のものがあるのであろう。養蚕がいくら斜陽産業になってきているとはいえ、蚕体病理学の研究は、害虫の微生物的防除のためにも、きわめて重要な基礎研究になっているのである。

伝染病から昆虫をまもることも、昆虫に伝染病を流行させることも、基本的には同一の病理学原理にもとづくものである。病気からふせぐために、しゃにむに殺菌剤をまいても、また害虫に病気を流行させるために、しゃにむに病原菌をふりまいても、病気はかんたんにはふせげず、またはやっつけてはくれないのである。

このような意味において、一方において伝統ある蚕糸試験場で昆虫病理学研究の基本をかため、また農業及び林業の試験場で昆虫病理の生態学的研究を行ない、それぞれを強化しつつ、さらに有機的な連絡協調を深めて行くならば、日本のこの研究も土台があるだけに大いに進歩するものと考えられる。

太平洋の対岸にスタインハウス教授がいることは、日本にとってもきわめて好都合である。蚕糸試験場の鮎沢博士は現在も *Journal of Insect Pathology* の編集委員の一人であるが、この方面の研究の世界のレベルがまだ低い今日、日本の実績と現在持っている力を結集し、さ

らにこれに政府が理解と助成をおしまぬならば、たちどころにすぐれた研究体制はととのうはずである。農林水産技術会議あたりの推進が望ましいものである。

スタインハウス教授はよい意味での野心家で、現在の *Dept. of Insect Pathology* を発展的に解消し、人間及び家畜をのぞく、その他の動物の病理学部にするのだといていた。彼が編集する前記の雑誌には、魚(海産)の病気にかんする論文までのせられているが、無脊椎動物までもひろくとりあげるのだといていた。そして2~3年後には新しい建物がたてられ、敷地もきまっているとまでのべていた。誠に意気軒昂たるものがありたくましいことである。

おわりに、ス教授が目下力をいれている昆虫の病気のサーヴェーの仕事をしき、各地から送られる病体昆虫の調べ方、これを記録するカードの見本などをひとそろいもらってきた。昆虫の病気のサーヴェーは一般の認識がまだ低いのでなかなか困難なわざである。まず、PRが必要であるとし、先年、永年作物の研究協議会で作ったような、罹病昆虫の見方、採集法、標本の作り方、送り方などを簡単に書いた印刷物を刷っていた。この点、日本もアメリカも一般的には同じレベルである。

翌6日には、郊外の大学農場に設けられた昆虫病理実験室で Tanada 博士に会った。ハワイ生まれの博士はスタインハウス教授のすぐれた共同研究者である。

アメリカの昆虫病理学は、スタインハウス博士によって、次第に基礎がかためられつつあるが、まだこれからの分野である。ス教授やタナダ博士らに大いに期待したい。

#### e. 森林害虫における昆虫病理研究：オレゴン州

Carvallisに新築された森林生物学研究所——アメリカの林業でも昆虫病理の研究に力をいれだした

上記のように、アメリカの昆虫病理学の研究はカリフォルニア大学に中心がある。また他の大学でも若干の研究が行なわれているが、大学は農林省の所管外にあり、農林省系統の研究機関では、まだ十分組織化されていないようである。しかし、近年、その重要性をみとめて、ベルヴィルに昆虫病理研究室が設けられているし、カリフォルニア州のリバーサイドでは、主として農業害虫に対して微生物による防除試験が行なわれている。

林業関係でも、ようやく天敵利用の研究に力をいれるようになり、オレゴン州(太平洋岸)のコルヴァリスにオレゴン大学を訪ねた際、太平洋岸北西部林業試験場の支場として、アメリカ西部森林生物研究所が大学の構内に新築されつつあった。今年の春、落成したはずである。この研究所は特に昆虫病理、昆虫、樹病の基礎的研究を推進するために新設されたものである。

その建設趣意書の中に、“ますます増大する森林資源の開発の要望に対して、これまでの研究はとうい追いついて行けなくなった。要するにそれは森林の動物および



植物と環境との間における自然界の法則についての基本的研究が欠けていたためである。これまでの応用研究には“Why”——何故に——という追及が欠けていたために、どうすればよいかについて答えられなかったのである”といった趣旨をのべ、“西部諸州の林業の研究者たちは、すべて森林生物学に関する基礎的知見の未熟なことを痛感するに至った”とし、“完備した研究施設と高度に訓練された各方面の研究者をととのえ、深い生物学的目的基礎研究を進めることが必要である”とのべている。

アメリカの樹病学の一般的傾向が、かなり古典的な思想を基盤としているかに感じていた学者にとって、この新研究所の設立は、きわめて意義があるように感じられた。

私は、コルヴェリスを、戦後マツクタイムシの防除対策勧告のために日本に来た旧知のファーニス博士と樹病部長のホワイト博士の両氏に案内されて行き、オレゴン大学の森林昆虫及び樹病の教授や研究者たちに会い、また建設途上の森林生物学研究所を見せてもらった。

アメリカ農林省の森林保護の研究はようやく近代的に、かつ組織化されて行くように思われたのである。

新研究所は3期計画で着手され、今のは第1期計画、全体の約3分の2ができ上がる。第1期計画は特に昆虫病理学と樹病学に重点がおかれ、12の実験室のうち昆虫病理が3、樹病2、菌類、微生物、昆虫生理、生化学などで占められ、その他は共同実験室となっている。

問題は研究者である。第1期で35人、最後には88人の定員を予定しているそうである。その3分の2は研究者であろうが、これだけの人材を簡単に養成し、集めることができるかどうか。昆虫病理学としては、現在はスタインハウス門下の新鋭 C.G. Thompson 博士がいるだけであった。しかし、ファーニス以下北西部林業試験場の総意がみとめられ、画期的な研究所ができたことを喜びあっていた。

#### f. 日本における生物的防除研究を組織化すべきである

日本における生物的防除の研究は、断片的には成果をあげているものがあるが、まだ本格的な研究が行なわれていないとはいえない。これまでの研究は、大学または試験場の研究者が、個人的な意欲からこの問題ととりくんでいるのであって、国または日本の農林業の研究方針としてはとりあげられていないからである。極端な表現をすれば、このような研究は、ふだんは趣味の研究とさえ考えられていたのである。

ところが、すでにヨーロッパ見聞記の中でのべたように、欧米各国とも競って、しかも互いに協力して、この研究に力を注いでいるのである。天敵研究ほど国際的共同研究を必要とする研究はないが、最近数年間に、欧米から新しい天敵を求めて、日本を訪ねた研究者は少なくない。英連邦の生物的防除研究所などは、日本に研

究所を設けようとさえし、日本の協力を求めているが、残念ながら日本には生物的防除研究をかかげるたった一つの研究室もないのである。わずかに、幾人かの研究者の、やむにやまれぬ気持ちが、恵まれぬ条件のもとに細々と信念の研究をつづけてきたのである。

日本では、なぜこのような本質的に重要な研究が育てられないのか？ 戦後、安松教授のルビーアカヤドリコバチ（ルビロウムシの天敵）の発見によって、天敵研究への認識は多少改まったかも知れないが、その認識が単にこの華やかさだけにひかれる程度のものであれば、余りにも皮相の認識である。

農林作物の栽培技術は、あくまで生物社会の生活の法則にのっとらなければならない。この法則を究明するところに、正しい農林技術がそだち、病虫害対策の基礎理念があるのである。天敵に関する研究は、有用天敵の発見とその利用を直接の目標とするが、この研究を通して生物社会の秩序法則をきわめることができるのである。それが唯一の角度とはいわないが、最も有力な、そして欠くべからざる核心をついた研究角度なのである。

ルビーアカヤドリコバチの発見も、研究者の多年にわたる地道な研究という基礎的蓄積があって、はじめて生まれたものであり、それは氷山の一角なのである。このような研究は、科学研究費とか応用研究費のような一時的な、そして安易な投資だけで期待しようとしても不可能である。

生物学は観察が基本であり、経験がきわめて重要な科学である。ただ新鮮な頭脳だけでは解決はできない。豊富な経験と常に新鮮でしかも正しい科学的精神を身につけた研究者によってのみ、正しい発展が期待されるのである。この意味においても、日本の農林業の将来を洞察し、大学はすぐれた農林業の生物学者を養成し、農林省は正しい農林技術を建設するために、科学的な研究政策をたてなおすべきであろう。

いま、日本の農林業は有史以来の大きな曲り角にきているといわれている。政治的、経済的な見通しは農林業の労働生産性の向上を必至の方向とする。研究者はこれに答えるべく努力するであろうが、機械化によるだけでこの悲願を達成することができるか否か？ 機械化によって栽培は粗放になる。粗放になっても、なおかつ土地生産性を現在のいどに維持し、いや現在以上に高めなければならないとするならば、品種改良、多肥（とくに化学肥料の）農業多用、土地改良などといった方向に力がむけられるであろうが、これらの技術のよせ集めだけで悲願が達成できるとは考えられない。作物が丸ビルのようなビルディングで、人工的条件下で水耕栽培が行なわれるような時代がくればともかく、開放された自然環境下で育てられるかぎり、このままでは日本農林業の前途には容易ならぬ難問が山積するであろう。

いかなる問題と対決しなければならないか、それを正しく洞察することができなければ、研究はつねに泥縄に

とどまるばかりでなく、解決のめどもつかないであろう。農林生物学者である多くの農業、林業の研究者はその意味において、正しい生物学的見通しをもって、日本の農林業の将来の問題点に対処しなければならぬし、明日の問題に答えるような、研究体制をととのえるべきである。

農作物、果樹園芸、林業などを通じて、日本は世界一流の病虫害国である。そして、この傾向は今後ますます増大するであろう。将来、病虫害の防除薬剤や散布機械などはますます進歩するであろうが、同時に将来の日本農林業は、ますます病虫害によって悩まされるであろうことを私は予言する。すなわち病虫害の生態的防除をとなえる筆者の思索がそのような見通しをもたせるのである。

いかなる農薬も、それだけでは病虫害を防ぎきることはできない。人間の医学では、理論上、副作用をもたない薬は存在しないと、医師はつねに症状を改善する効果と、副作用とを天秤にかけながら投薬するという。農林業では、この副作用とは直接の薬害だけを意味するものではない。

病虫害は元来、作物の体質的あるいは作物社会の社会的矛盾によっておこるものである。この矛盾は自然の経過の中でも生ずるものであるが、栽培条件に人工が加えられれば、加えられるほど、作物社会には大きな矛盾がおこる。品種改良も、施肥も、土壌管理も、栽培時期の

変化も、栽培地域の変更も、自然におこる矛盾を補正するようなものならばよいが、人工も一步を誤ればかえって新しい大きな矛盾を誘発するであろう。病虫害はある意味において、これらの人工的な栽培技術が内に秘める欠陥の皺よせ現象と見ることができる。このように考えてきた場合、農薬の多用は直接には効果をあげても生物社会に最も大きな矛盾を生じることさえあると考えられるのである。

人間社会では、文化が進むと奇形児の出産がふえるという統計的な事実もでているそうである。農林業はいかに進歩しても、奇形児の農林業になってはならない。技術の改良を研究しながらも、われわれはたえず生物学的反省を忘れてはならないのである。自然の法則を無視することはできないからである。

最近、ウイルス病研究所とか、農薬研究所などの建設が叫ばれているが、病虫害跳梁の今日、もっとも千万の声とも考えられる。しかし、それと同時に、あるいはそれ以上に、天敵あるいは生物的防除研究を強化する必要があると、私は考える。

私は、あえて研究所の建設とはのべなかつた。雨後の筈のように、群小研究所の乱立を警戒するからであり、また農林業にとって本質的に重要であって、しかも今日わすれられている研究はほかにもあるからである。それは、例えば農林生物学研究センターといったものであるが、ここでは省略する。(つづく)

## ウラジロモミ幼苗の 芽枯病

浜 武 人

林業試験場木曾分場

長野県下では、近時、亜高山性樹種のウラジロモミ、トウヒ、シラベなどの養苗がさかんに行なわれるようになってきたが、ここ2、3年6～7月になるとウラジロモミ2～4年生の頂端新芽が枯死している被害(第1図)の鑑定依頼が目立って多くなってきた。

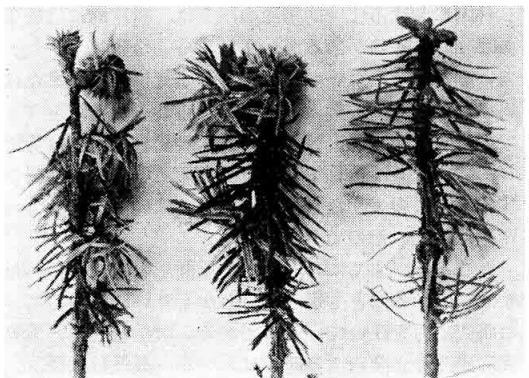
この被害部分を切りとって病原菌の分離としてみると例外なく灰色かび(*Botrytis cinerea*)を検出した。

この病徴はおよそ次のとおりである。先端部に異常の認められるようになるのは6月上旬で、0.5～1cmぐらいの先端幼芽がしおれて褐色に変じ、下垂枯死した状態がみられる。そして中には被害が全葉に及んで枯死しているものもあるが、大半は別のところから芽がでて成長はきわめて悪いが、枯死するものは少ない。なお発芽直後の子苗にはこのような被害は今のところ認められず、2～4

年生の床替をしないうで据えおきしてある苗でしかも成長の比較的よいものに点々と現われる傾向がある。

したがって、この被害は冬期間の寒害により先端部分が侵され、さらにここにボトリチス菌が寄生したのではないかと考えられるが、真相は今のところ明かでない。

これによく似た被害として、北海道にトドマツ苗の芽枯病というのがある。本被害発生苗畑にはさしあたりの防除法として、4-4式ボルドー液を2～3日散布しているが、これでまんえんは防止できるようである。



第1図 ウラジロモミ幼苗の芽枯病(長野・飯原)

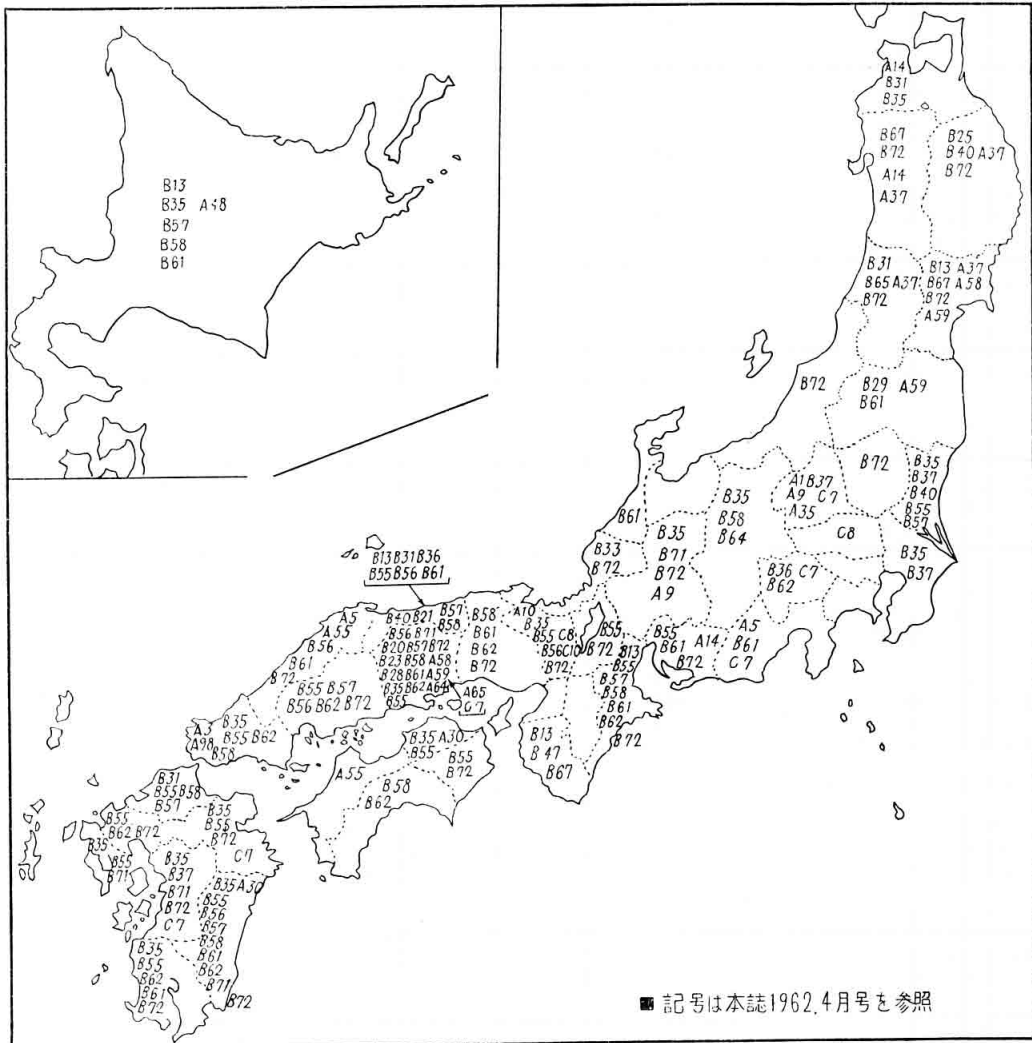
情報

被害速報

森林病虫害獣被害(発生)速報カードの提出状況

速報カード37年7月20日～8月19日までに到着の分の集計表

種類	松くい虫	松毛虫	クリタマバ	スギハダニ	マツバノ タマバエ	マイマイガ	スギ タマバエ	ノネズミ	その他 害
被害数量	30,785㎡	4,192ha	—	3,181ha	29ha	2ha	976ha	2,083ha	78ha
報告件数	37件	39件	2件	189件	6件	1件	25件	18件	28件
	その他虫害	その他獣害	カラマツ 先枯病	ハバチ類	計				
	4,127ha 121件	6ha 6件	78ha 12件	— 1件	495件				



■ 記号は本誌1962.4月号を参照

(246)

## 病 害

## ○ タケの開花病

発生場所	被害程度	樹種 種 齢	被害数量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
群馬 利根郡月夜野町		マダケ 1～7年	面積 0.08ha 本数 0.7千本	7.27	沼田市3926の2 A g. 金井 次郎	

## ○ タケの自然枯病

山口 大津郡日置村		タケ 2～4年	面積 10ha 本数 20千本	8.8	油谷町駐在 A g. 西村 透	
-----------	--	------------	--------------------------	-----	--------------------	--

## ○ 針葉樹稚苗の立枯病

静岡 田方郡天城湯ケ島町 (東京局天城署)		スギ, ヒノ キ, まき付 床	面積 790m <sup>2</sup> 本数 10千本	6月 上旬	天城署本谷苗畑 田代 幸也	
島根 大原郡木次町		スギ 1年	面積 10千本	7.17	県木次経済事務所林務課 浅原 末雄	

## ○ スギの赤枯病

岐阜 不破郡関ヶ原町, 垂井町		スギ 2～4年	面積 0.09ha 本数 19.5千本	7.25～ 7.31	関ヶ原町 A g. 田中力男 垂井町 小野 保	
--------------------	--	------------	------------------------------	---------------	----------------------------	--

## ○ スギの雪腐病

群馬 利根郡水上町 (前橋局水上署)		スギ 2年	面積 3.0ha 本数 6.5千本	5.5	水上町大字藤原 浅見 鶴義	
-----------------------	--	----------	----------------------------	-----	------------------	--

## ○ スギの枝枯菌かく病

青森 西津軽郡深浦町		スギ 7年	面積 5.57ha 本数 16.8千本	7.17	深浦町 小山内 A g	
秋田 南秋田郡五城目町		スギ 26年	面積 3.09ha 本数 3.6千本 材積 413m <sup>3</sup>	7.23	秋田市西根小屋町仲丁 秋田林業事務所長	
愛知 北設楽郡設楽町 (名古屋局新城署)	中害	スギ 9年	面積 4.0ha 本数 12.4千本	6.29	田口担当区 若田 義久	

## ○ マツの葉ふるい病

宮崎 東臼杵郡諸塚村	中害	クロマツ 25年	面積 0.2ha 本数 40本	7.4	諸塚村第13森林区 A g. 石川 忠雄	
------------	----	-------------	--------------------------	-----	-------------------------	--

## ○ マツの病害

山口 都濃郡南陽町	微害	アカマツ クロマツ 3～6年	面積 0.01ha 本数 20本	6.20	南陽町 A g. 久行 勇	
-----------	----	----------------------	---------------------------	------	------------------	--

## ○ カラマツの落葉病

群馬 吾妻郡草津町 (前橋局草津署)	微害	カラマツ 10～12年	面積 15ha 本数 2千本	8.10	草津担当区 大沢 一美	
-----------------------	----	----------------	-------------------------	------	----------------	--

## ○ カラマツの先枯病

岩手 和賀郡和賀町 (青森局北上署)	微害	カラマツ 2～9年	面積 0.23ha 本数 734本	8.8	煤孫担当区 齊藤 敏	被害区域面積は15.31haで 蔓延の見込
岩手 紫波郡紫波町, 都南村 (青森局盛岡署)		カラマツ 5年	面積 8.79ha 本数 11.1千本	7.19	赤沢担当区 小野寺圭喜	
岩手 花巻市 (青森局花巻署)	中害	カラマツ 13年	面積 1.5ha 本数 3.3千本	7.14	花巻署 五代儀陸雄	
宮城 宮城郡宮城村 (青森局仙台署)	微害	カラマツ 1～4年	面積 0.02ha 本数 10本	6.28	仙台署	
秋田 雄勝郡稲庭川連町	微害	カラマツ 15年	面積 1.0ha 本数 100本	7.17	雄勝林業事務所 佐々木明夫	
山形 米沢市	微害	カラマツ 3年	面積 0.3ha 本数 350本	8.13	米沢市 松本 光造	
山形 西村山郡西川町, 朝日町	中害	カラマツ 3～20年	面積 0.15ha 本数 130本	8.4～ 8.7	西村山地方事務所 鈴木清夫 白田金次郎	
山形 東置賜郡宮内町	微害	カラマツ 5～10年	面積 3.0ha 本数 8千本	6.18	東南置賜地方事務所 A g. 石沢 実	

## ○ トドマツの葉さび病

北海道 静内郡静内町 (札幌局静内署)	激害	トドマツ	面積 7.4ha 本数 12.4千本	7.23	御園第二担当区 藤原 兼重	
------------------------	----	------	-----------------------------	------	------------------	--

## ○ ナラタケ病

岩手 下閉伊郡川井村 (青森局川井署)	微害	カラマツ 3～14年	面積 8.3ha 本数 2,960本	7.30	松草担当区 佐藤 栄	
------------------------	----	---------------	-----------------------------	------	---------------	--

## ○ キリの天狗巢病

発生 の 場所	被害程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
宮 城 牡鹿郡牡鹿町	激害	キ リ 1 ~ 3年	面積 0.1ha 本数 20本	7.16	牡鹿町	
岡 山 赤磐郡赤坂町	中害	キ リ 4 ~ 6年	面積 0.7ha 本数 42本	8.1	赤坂町役場	斉藤 忠
上房郡有漢町	微害	キ リ 3 年	面積 0.5ha 本数 30本	7.12	有漢町 A g.	平井 靖夫 忠 攻亨

## ○ キリのたんそ病

宮 城 牡鹿郡牡鹿町	激害	キ リ 1 ~ 3年	面積 0.25ha 本数 180本	7.16	牡鹿町	斉藤 忠
福 島 信夫郡飯坂町	中害	キ リ 1 ~ 2年	面積 0.8ha 本数 800本	8.1	福島林業事務所 遠藤宣夫	清野英之助
岡 山 赤磐郡赤坂町	微害	キ リ 4 ~ 6年	面積 1.2ha 本数 120本	7.10	赤坂町 A g.	平井 靖夫
上道郡上道町	激害	キ リ 2 年	面積 0.01ha 本数 5本	7.11	岡山農林事務所 A g.	守谷 孝正

## ○ ヤマハンノキの立枯病

岡 山 玉野市	微害	ヤマハン ノキ 1年(苗畑)	面積 0.01ha 本数 1千本	7.12	玉野林務駐在所 A g.	生口 澄雄
---------	----	----------------------	---------------------------	------	-----------------	-------

## ○ ハンノキ類のカッパン病

岡 山 西大寺市	微害	ヤマハン ノキ 1年(苗畑)	面積 0.07ha 本数 10千本	7.11	岡山農林事務所 A g.	守谷 孝正
玉野市	微害	ヤマハン ノキ 1年(苗畑)	面積 0.01ha 本数 1千本	7.12	玉野林務駐在所 A g.	生口 澄雄
邑久郡長船町	微害	ヤマハン ノキ 1年(苗畑)	面積 0.05ha 本数 10千本	7.12	〃	
和気郡備前町		ヤマハン ノキ 1年(苗畑)	面積 0.2ha	7.17	備前町 A g.	高原真喜雄

## ○ ヤマハンノキの病害

岡 山 玉野市	中害	ヤマハン ノキ 1年(苗畑)	面積 0.01ha 本数 500本	7.12	玉野林務駐在所 A g.	生口 澄雄
---------	----	----------------------	----------------------------	------	-----------------	-------

## 虫 害

## ○ トドマツオオアブラムシ

北海道 白老郡白老町 (札幌局白老署)	微害	トドマツ 3 ~ 8年	面積 170.4ha	7.3	白老町	宗像 長吉
------------------------	----	----------------	---------------	-----	-----	-------

## ○ マツオオアブラムシ

宮 城 石巻市	中害	アカマツ 8 年	面積 3.0ha 本数 12千本	6.28	石巻農林事務所 A g.	芦田 栄一
三 重 津市	中害	クロマツ アカマツ 3 年	面積 0.4ha 本数 1千本	7.30	津林業事務所	中川 幸彦

## ○ マツノエダオオアブラ

和歌山 日高郡印南町	微害	クロマツ 27 年	面積 0.01ha 本数 50本	6.27	印南町 A g.	井田 恒隆
------------	----	--------------	---------------------------	------	-------------	-------

(248)

## ○ スギマルカイガラムシ

発生 の 場所	被害程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
岡 山 真庭郡落合町		スギ 3年	面積 0.2ha 本数 0.72千本	8.10	勝山農林事務所 A g. 山 敏之	

## ○ キマダラコウモリガ

鳥 取 岩美郡福部村	微害	クリ 2年	面積 0.9ha 本数 0.2千本	7.16	鳥取地方農林振興局 伊田 範愛	
------------	----	----------	----------------------------	------	--------------------	--

## ○ スギメムシガ

岡 山 久米郡旭町	微害	スギ 5年	面積 0.3ha 本数 0.6千本	6.16	久米郡旭町 A g. 光井 琢磨	
-----------	----	----------	----------------------------	------	------------------------	--

## ○ カラマツツミノガ

岩 手 岩手郡岩手町	発生	カラマツ 6年	—	6.1	岩手町 戸野村利徳	虫態：幼虫
------------	----	------------	---	-----	--------------	-------

## ○ マツブアカシムシ

岡 山 倉敷市		クロマツ 8年	本数 10本	7.1	倉敷農林事務所 古山 六男	
---------	--	------------	-----------	-----	------------------	--

## ○ カラマツイトヒキハマキ

福 島 南会津郡下郷町 (前橋局若松署)	激害	カラマツ 4～10年	面積 218.25ha 本数 126.8千本	7.23	若松署 造林 係長	
-------------------------	----	---------------	---------------------------------	------	--------------	--

## ○ マツノシンマダラメイガ

青 森 三戸郡三戸町		アカマツ 7年	本数 6本	6.21	三戸林務出張所 松橋 文男	
山 形 飽海郡遊佐町	中害	クロマツ 7～8年	面積 0.05ha 本数 100本	6.19	飽海地方事務所 布施 英夫	
福 岡 田川市	激害	アカマツ 3年	面積 10ha 本数 40千本	7.29	田川市 加藤 伴	

## ○ モモノコマダラメイガ

鳥 取 岩美郡福部村	微害	クリ 6～10年	面積 1.0ha 本数 100本	7.16	鳥取地方農林振興局 伊田 範愛	
------------	----	-------------	---------------------------	------	--------------------	--

## ○ アオイラガ

福 井 福井市	激害	キリ 18年	面積 20ha 本数 7千本	8.10	県林務課 小林 栄	
---------	----	-----------	-------------------------	------	--------------	--

## ○ オビカレハ

岡 山 真庭郡久世町		クスギ 10年	面積 0.2ha 本数 0.7千本	6.11	勝山農林事務所 A g. 則本 富夫	
茨 城 稲敷郡阿見町	中害	イタリ 3年	面積 0.1ha 本数 30本	5.29	林政課 S P. 大高 三郎	

## ○ ツガカレハ

北海道 斜里郡清里町		カラマツ 5～10年	面積 200ha —	7.6	道造林課	
------------	--	---------------	------------------	-----	------	--

## ○ マツカレハ

北海道 松前郡松前町	中害	クロマツ 12～14年	面積 1.5ha 本数 9千本	6月末	道造林課 S P. 館山 一郎	
青 森 西津軽郡深浦町	中害	クロマツ 7年	面積 0.2ha 本数 0.7千本	7.17	深浦町 小山内 A g	
千 葉 佐倉市		アカマツ クロマツ	面積 1,000ha	6.25	印旛農林事務所 築根 一	
長 野 印旛郡八街町、 印旛町、四街道町		アカマツ	面積 552.4ha	6.11～ 7.19	”	
岐 阜 不破郡垂井町	中害	アカマツ 10年	面積 0.34ha 本数 1.3千本	7.20	上伊那地方事務所 A g. 浦野 守治	
京 都 綴喜郡田辺町	微害	アカマツ 15～70年	面積 10ha 本数 5千本	6.6	西濃県事務所 林 務 課	
山 口 厚狭郡山陽町	微害	アカマツ 20年	面積 8ha 本数 0.2千本	7.10	京都市右京区 井上 雅晴	
		クロマツ 150年	面積 1.2ha 本数 0.2千本 材積 120m <sup>3</sup>	6.15	山陽町 A g. 藤井 正一	

発生 の 場所		被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
香 川	大川郡寒川町	微害	クロマツ	面積 0.2ha 本数 300本	8.1	県大川事務所	激害 3ha, 中害16ha 微害 0.5ha
	南高米郡有明町, 国見町, 布津村		アカマツ クロマツ	面積 19.5ha 本数 59.3千本	8.9	諫早市 総合農林センター	
熊 本	水俣市	激害	5～20年 アカマツ	面積 50.1ha 本数 300本	7.10～ 8.13	県芦北事務所 浮池・小田	A g. 河野 俊也
大 分	日田市		5～40年 アカマツ	面積 10ha 本数 40千本	7月	日田市	
鹿 児 島	宇佐郡安心院町	微害	5年 アカマツ	面積 10ha 本数 50千本	7.7	四日市農林事務所 A g.	杉本 正之
	鹿屋市	中害	マ	面積 296ha 本数 738.8千本	8.3	鹿屋農林事務所 下園	一 態
指宿市	クロマツ		面積 1,039ha 本数 1,539千本	7月	指宿農林出張所 松元	和 隆	
大 口 市	大口市	激害	クロマツ	面積 14ha 本数 68.4千本	7.1	加治木農林事務所 長	貞 栄
	川辺郡笠沙町 坊津町, 木浦町, 肝属郡根占町, 田 代町, 高山町, 佐 多町, 大根占町, 串良町, 吾平町 熊毛郡中種子町		クロマツ マ	面積 6Cha 本数 136千本 面積 635ha 本数 1,468.5千本	7.24～ 8.3	A g. A g.	小 湊 栄男 中 島 節
始 良 郡 霧 島 町	始良郡霧島町	激害	マ	面積 50ha 本数 50千本	7.13～ 8.2	岩元光明, 大山義夫 前田義行, 手塚昭雄 浜田 登, 下園一 態	西之表市熊毛支庁 前田 宗倫
	始良郡霧島町		マ	面積 10ha 本数 25千本	6.25	霧島町役場 古城 元夫	
○ マイマイガ							
山 梨	南都留郡秋山村		クヌギ 1年	面積 2ha 本数 6千本	6.28	大月市 幡野 宇宙	
○ セグロシヤチホコ							
茨 城	筑波郡谷田部町	中害	— 2年	面積 0.2ha 本数 40本	5.25	林政課 S P.	大高 三郎
	稲敷郡阿見町	中害	— 3年	面積 0.1ha 本数 30本	5.26	〃	〃
	結城郡八千代村	微害	— 2年	面積 0.2ha 本数 20本	5.29	〃	〃
熊 本	山鹿市	中害	イタリヤ ポプラ 2年	本数 — 3本	7.3	山鹿市栄町 黒田 隆明	
○ モクメシヤチホコ							
茨 城	筑波郡谷田部町	中害	イタリヤ ポプラ 1年	面積 0.2ha 本数 60本	5.25	林政課 S P.	大高 三郎
	稲敷郡茎崎村 阿見町		イタリヤ ポプラ 1年	面積 0.4ha 本数 40本	5.25	〃	〃
	結城郡八千代村	微害	イタリヤ ポプラ 1～3年	面積 20本 本数	5.26	〃	〃
群 馬	碓氷郡松井田町 (前橋局前橋署)	微害	イタリヤ ポプラ 3年	面積 0.20ha 本数 18本	6.14	横川担当区 福田 光二	
○ クスサン							
岩 手	岩手郡岩手町	発生	ク		5.30	岩手町 佐々木弥右エ門	虫態：幼虫 密度：中
茨 城	東茨城郡茨城町	中害	クヌギ 6年	面積 0.4ha 本数 200本	7.17	県 S P.	大高 三郎
	新治郡八郷村		クヌギ 4～6年	面積 1.5ha 本数 6千本	7.12	S P. A g.	大高 三郎 溝口 悌三
○ キチョウ							
和歌山	日高郡日高町	中害	モリシマ アカシヤ 1年(直播)	面積 2.0ha 本数 6千本	7.6	日高地方事務所 片家美喜夫	

## ○ コカミナリハムシ

発生 の 場所	被害程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見月日	情報提供者氏名	摘 要
山口 熊毛郡大和村	中害	ヤシヤブ 1年(苗畑)	面積 0.05ha 本数 5千本	6.27	平生町 大田 一雄	

## ○ スギハムシ

愛知 幡豆郡幡豆町	中害	クロマツ 3～5年	面積 100ha 本数 115.5千本	8.6	西三河事務所 城田久二児	
額田郡額田町	激害	クロマツ 3～5年	面積 6.5ha 本数 41.5千本	8.6	〃	
三重 阿山郡伊賀町		スギ, ヒノ キ, マツ	面積 230ha 本数 480千本	7.16	伊賀町 前地 計吾	
名賀郡青山町		スギ, ヒノ キ, マツ	面積 565ha 本数 1,240千本	7.13	松本 仁志 山本 隆夫	
京都 天田郡夜久野町		スギ, ヒノ キ, マツ	面積 3.0ha 本数 400本	7.20	夜久野町 A g. 衣川 尹久	
宮津市 (大阪局京都署)		ヒノキ 10年	面積 3.0ha 本数 6千本	7.24	舞鶴市 三島 博司	
鳥取 鳥取市		アカマツ 3年	面積 52ha 本数 208千本	7.12	鳥取地方農林局 伊田 範愛	
日野郡江府町		アカマツ 1年	面積 36ha 本数 1.5千本	7.18	日野地方農林局 A g. 幅田 智	
島根 能義郡布部村, 広瀬町		アカマツ スギ	面積 338.1ha 本数 1,029千本	6.20～ 7.7	松江経済事務所 遠藤 融	
飯石郡掛合町, 三刀屋町		アカマツ ヒノキ	面積 21ha 本数 22.7千本	7.2～ 7.24	加納 重信 岡本 和男	
鹿足郡津和野町		アカマツ 2年	面積 1.0ha 本数 1千本	7.21	第71森林区 A g. 広瀬 亨	
大原郡木次町, 大東町		アカマツ 2～3年	面積 11ha 本数 38千本	7.17	木次経済事務所 浅原 末雄	
大田市	中害	アカマツ 2～4年	面積 2.3ha 本数 7千本	7.16～ 7.27	7.23～ 31 釜田憲次郎 原田清人 渡辺 勝義	
邑智郡邑智町, 大和村	中害	アカマツ スギ	面積 177ha 本数 一	7.23～ 31		
岡山 玉野市	微害	アカマツ クロマツ	面積 0.1ha 本数 1千本	7.12	岡山農林事務所 A g. 生口 澄雄	
勝田郡奈義町	中害	スギ 2年(苗畑)	面積 0.1ha 本数 10千本	6.30	奈義町 A g. 竹内 栄	
広島 高田郡高宮町, 白木町		アカマツ 2～10年	面積 9.2ha 本数 25.3千本	7.14～ 7.27	A g. 竹岡 哲夫 A g. 杉安 義一	
高田郡高宮町 (大阪局三次署)	激害	アカマツ 2年	面積 7.0ha 本数 21千本	7.25	高宮町 津田 知昭	
山口 阿武郡むつみ村	中害	アカマツ 3年	面積 0.3ha 本数 1千本	7.20	むつみ村 A g. 水津 民一	
大島郡橋町, 大島 町	激害	マツ, スギ ヒノキ	面積 10ha 本数 一	7.24	東和町 A g. 村井 浅一	
佐波郡徳地町		アカマツ 3年	面積 3.0ha 本数 8千本	7.21	徳地町 A g. 山本 覚信	
美称郡美東町, 秋芳町		マツ, スギ 2～20年	面積 69.6ha 本数 97.5千本	7.10～ 8.3	篠田芳夫 永田研一 石田昭信 黒岩則文	
徳島 阿南市	中害	スギ クロマツ	面積 2.0ha 本数 5千本	7.21	33森林区 A g. 美馬 技師	
愛媛 越智郡玉川町	中害	クロマツ 2～4年	面積 5ha 本数 2千本	7.30	県今治事務所 長野 熊一	
福岡 八女郡上陽町, 星野町	中害	スギ 8～10年	面積 20ha 本数 60千本	7.10	筑後農林事務所 岡 照美	
佐賀 鳥栖市		アカマツ スギ	面積 1.3ha 本数 3千本	7.28	鳥栖市役所 中元寺朝雄	激害1ha, 中害0.3ha



発生 の 場所		被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
佐 賀	三養基郡基山町	激害	スギ	面積 0.4ha 本数 1千本	6.26	基山町役場	天本 和来
	諫早市		アカマツ	面積 3ha 本数 12千本	7.16	諫早市 総合農林センター	
熊 本	菊池市	中害	スギ, ヒノキ, マツ	面積 25ha 本数 75千本	7.17	菊池市	兼田 Ag
	球磨郡相良村		アカマツ	面積 3ha 本数 9千本	7.16	相良村	
大 分	日田市	中害	アカマツ	面積 157.8ha 本数 549千本	6.25~ 7.28	河野俊也 武石 明 椋野和夫 河野 登	
	宮崎		宮崎市	マツ	面積 15.05ha 本数 40千本	5.10	
宮 崎	北諸県郡荘内町, 山之口町	激害	クロマツ	面積 31.4ha 本数 119.2千本	7.12~ 7.23	東元 信良 内村 親行 福山 竜雄	
	西諸県郡飯野町, 加久藤町, 真幸町		クロマツ	面積 165ha 本数 615.7千本	6.10~ 7.13	宮元 鉄雄 栗野 信男	
	西都市		スギ	面積 1.2ha 本数 3.6千本	7.16	第12森林区 Ag.	
	鹿児島		出水郡長島町	マツ	面積 2ha 本数 0.8千本	7月	
	嚙嚙郡志布志町	激害	クロマツ	面積 20ha 本数 60千本	8.7	志布志町役場	飯尾登幾男 東 義浩
○ ドロノキハムシ							
茨 城	筑波郡谷田部町	微害	イタリヤ ポプラ	面積 0.1ha 本数 3本	5.25	県林政課 S P.	大高 三郎
	稲敷郡阿見町	微害	イタリヤ ポプラ	面積 0.1ha 本数 20本	5.26	"	
	結城郡石下町	微害	イタリヤ ポプラ	面積 0.3ha 本数 30本	5.29	"	
○ ハンノキハムシ							
滋 賀	甲賀郡信楽町	激害	ヤマハン ノキ	面積 3.0ha 本数 12千本	7.20	県水口事務所 福井 義輝	
○ ホタルハムシ							
長 崎	諫早市	微害	スギ	面積 2.3ha 本数 9.2千本	7.23	諫早市 総合農林センター	
○ ヤナギルリハムシ							
茨 城	筑波郡谷田部町	微害	イタリヤ ポプラ	面積 0.1ha 本数 10本	5.25	県林政課 S P.	大高 三郎
	稲敷郡阿見町		イタリヤ ポプラ	面積 0.1ha 本数 10本	5.26	"	
○ ハムシ科の1種							
岡 山	勝田郡奈義町		スギ (当年生 さし床)	面積 0.03ha	7.8	県林試 井上 悦甫	
○ コマダラカミキリ							
広 島	安芸郡下蒲刈町		ヤマハン ノキ, ヤシ ブシ	面積 40ha 本数 200千本 材積 10m <sup>3</sup>	7.1	県林務出張所 原田 武夫	
○ スギカミキリ							
鳥 取	岩美郡福部村	中害	スギ	面積 0.4ha 本数 100本	6.11	4 森林区 伊田 範愛	
鳥 根	周吉郡西郷町	激害	スギ	面積 3ha 本数 4千本	7.23	隠岐支庁 安達 健児	

(252)

## ○ ヒメスギカミキリ

発生場所	被害程度	樹林種	種齢	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
岡山 御津郡加茂川町		ヒノキ	9年	本数 1本	7.4	岡山農林事務所 A g. 安田 亀男	

## ○ キリノイボゾウムシ

岡山 高梁市	中害	キリ	4～8年	面積 本数 3.3ha 3千本	6.4	高梁農林事務所 A g. 車 和男	
吉備郡足守町	中害	キリ	4～5年	面積 本数 0.02ha 8本	6.28	河田 清夫	

## ○ マツシラホソゾウムシ

千葉 成田市		マツ	40～200年	材積 600m <sup>3</sup>	8.2	印旛農林事務所 築根 一	
印旛郡印旛村, 富里村, 八街村		マツ	30～200年	材積 1,800m <sup>3</sup>	8.2	〃	
広島 庄原市		アカマツ	3～5年	面積 本数 0.5ha 1千本	7.25	見田 敏	

## ○ ヤナギシリジロゾウムシ

北海道 札幌郡手稲町		ポプラ	3年	本数 24本	7月	造林課 S P. 館山 一郎	
茨城 筑波郡谷田部町	激害	イタリヤ	2年	面積 本数 0.1ha 30本	5.25	林政課 S P. 大高 三郎	
北相馬郡守谷町	激害	イタリヤ	3年	面積 本数 0.2ha 60本	5.26	〃	
稲敷郡阿見町	中害	イタリヤ	3年	面積 本数 0.2ha 60本	5.26	〃	

## ○ コマダラオトシブミ

岡山 御津郡加茂川町		クリ	1～5年	面積 本数 0.02ha 10本	6.24	岡山農林事務所 A g. 酒本 裕士	
------------	--	----	------	------------------------	------	-----------------------	--

## ○ キイロコキクイムシ

三重 度会郡二見町, 南島町	中害	クロマツ	18～120年	面積 本数 2.7ha 138本	7.15～ 8.3	A g. 林 徳治 A g. 田中 幹二	
鳥取 気高郡気高町	激害	クロマツ	70～80年	面積 本数 0.2ha 8本	7.10	鳥取地方農林振興局 伊田 範愛	

## ○ マツノキクイムシ

兵庫 宍粟郡千種町	中害	クロマツ	23年	面積 本数 3.0ha 1.2千本	7.10	千種町役場 A g. 船曳 好市	
高知 土佐清水市	中害	アカマツ	25～46年	面積 本数 0.7ha 60本	7.25	土佐清水市 青井 玄	
宮崎 東臼杵郡諸塚村, 北郷村		アカマツ	10～40年	材積 面積 本数 材積 49.83m <sup>3</sup> 5.54ha 10本 2.5m <sup>3</sup>	7.19	第3森林区 第11 〃 石川 忠雄 森 文雄	

## ○ マツノオオキクイムシ

北海道 標津郡中標津町 (帯広局中標津署)	微害	カラマツ	30年	面積 本数 材積 19.08ha 30本 8.0m <sup>3</sup>	7.27	中標津署	
長野 下伊那郡阿南町 (長野局飯田署) 小県郡東部町 (長野局上田署)	激害	カラマツ	3～5年	面積 本数 10ha 25千本	7.25	飯田市 上田 正二	
		カラマツ	46年	面積 本数 3.0ha 1千本 350m <sup>3</sup>	8.6	彌津川担当区 小松 昇	

## ○ オオスジコガネ

石川 河北郡津幡町	微害	マツ	4～6年	面積 本数 10ha 14千本	8.8	津幡町 酒井 義信	
兵庫 赤穂郡上郡町	中害	スギ	15年	面積 材積 0.6ha 6m <sup>3</sup>	7.20	上郡町 前田 保夫	

発生の場所		被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
三重	名賀郡青山町	激害	スギ 2~40年	面積 7ha 本数 30千本	7.30	青山町森林組合 山本 隆夫	
	津山市	激害	ポプラ 4年	面積 — 本数 —	8.7	津山西部担当 A g. 森 定淳	
	真庭郡中和村	激害	スギ、マツ カラマツ 6年	面積 0.7ha 本数 2千本	7.24	中和担当区駐在 江見 英	
山口	阿武郡阿東町	中害	スギ、ヒノ キ、マツ 5~10年	面積 10ha 本数 25千本	7.30	阿東町 板垣 照夫	

## ○ コガネムシ

福島	石城郡三和村 (前橋局平署)	微害	アカマツ 6年	面積 1.0ha 本数 3千本	7.19	三和村 鈴木 彰	
宮崎	東臼杵郡北浦村	激害	マツ 9年	面積 0.1ha 本数 250本	7.10	北浦村 工藤 米吉	

## ○ スジコガネ

静岡	三島市	微害	ヒノキ 10年	面積 21ha 本数 63千本	8.1	沼津林業事務所 山本 保孝	
愛知	北設楽郡設楽町 (名古屋局新城署)	微害	カラマツ 7~10年	面積 5.0ha 本数 10千本	8.1	田口担当区 若田 義久	
兵庫	宍粟郡千種町 (大阪局山崎署)	中害	スギ 10年	面積 20ha 本数 40千本	7.25	千種町 多之和 馨	
岡山	玉野市	微害	クロマツ アカマツ 6~10年	面積 2.0ha 本数 1千本	7.12	玉野林務駐在所 A g. 生口 澄雄	
島根	邑智郡桜江町 (大阪局川本署)	中害	スギ 19年	面積 5.81ha 本数 15千本	7.17	桜江担当区 杉村 嘉則	

## ○ ヒメコガネ

北海道	野付郡別海村 (帯広局根室署)	微害	カラマツ 1~4年	面積 17.27ha 本数 43.2千本	7.30	中春別担当区 吉本 道夫	
岡山	玉野市	微害	アカマツ 6~10年	面積 2ha 本数 0.5千本	7.12	玉野林務駐在所 A g. 生口 澄雄	

## ○ コガネムシの1種

岡山	苫田郡奥津村	発生	スギ (幼齡林)	—	7.30	奥津北部担当 A g. 遠藤 八郎	虫態：成虫
----	--------	----	-------------	---	------	----------------------	-------

## ○ 松くい虫

山梨	南都留郡鳴沢村		アカマツ 55年	面積 1ha 材積 100m <sup>3</sup>	6.1	甲府市 山梨県林業指導課	
三重	名張市 (大阪局亀山署)	激害	マツ 50~60年	面積 112ha 材積 730m <sup>3</sup>	6.25	名張市 名張森林組合	
京都	福知山市		アカマツ 50~80年	面積 0.5ha 材積 12m <sup>3</sup>	6.25	福知山事務所 谷口 春次	
	亀岡市		マツ 40年	面積 — 材積 50m <sup>3</sup>	7.14	亀岡事務所 松原 亘	
	綾部市	中害	マツ 45~50年	面積 4ha 材積 125m <sup>3</sup>	8.7	梅原 孝雄 山口 剛	
岡山	岡山市		アカマツ 50年	面積 0.13ha 材積 4.0m <sup>3</sup>	7.14	岡山農林事務所 A g. 酒本 裕士	
	御津市		アカマツ 50年	面積 0.47ha 材積 29.97m <sup>3</sup>	5.11	建部町 垣本 久男	
広島	神石郡神石町	激害	アカマツ 50年	面積 0.50ha 材積 25m <sup>3</sup>	8.2	神石町役場 A g. 渡辺 佳郎	
山口	岩国市	激害	アカマツ 50年	面積 0.05ha 材積 25m <sup>3</sup>	7.10	岩国市 赤松 寅夫	
	美禰市	中害	アカマツ 37年	面積 0.1ha 材積 11.0m <sup>3</sup>	6.15	美禰林業事務所 A g. 黒岩 則文	

発生 の 場所		被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
高 知	高岡郡佐川町	激害	アカマツ 20 年	面積 本数 0.12ha 10本	7.26	佐川町	
佐 賀	杵島郡有明村	中害	アカマツ クロマツ 40 年	面積 材積 0.3ha 16.75m <sup>3</sup>	6.22	有明村	山崎 英喜 川崎 昇
宮 崎	日南市	中害	クロマツ 10~20年	面積 材積 9.0ha 50m <sup>3</sup>	8.7	南那河農林事務所	倉田 士巳
鹿児島	西之表市	激害	クロマツ 40~50年	面積 材積 2.0ha 170m <sup>3</sup>	6.5	熊毛支庁	前田 宗倫
	加世田市	激害	マ ツ 3~45年	面積 本数 65ha 124.5千本	7.5	加世田農林事務所	上齒 晃
	大口市	激害	クロマツ 15~20年	面積 材積 1.35ha 24.14m <sup>3</sup>	8.1	大口出張所	長 貞栄
	枕崎市		クロマツ 15~40年	面積 材積 152ha 4,520m <sup>3</sup>	7.20~ 8.3	枕崎市担当	小湊 栄男
	始良郡横川町, 霧島町		クロマツ 30 年	面積 材積 2ha 40m <sup>3</sup>	6.25~ 8.1	横川町役場	吉井 勝男
	川辺郡坊津町		クロマツ 40~50年	面積 材積 30ha 900m <sup>3</sup>	7.20~ 8.4	坊津町 A g.	小湊 栄男

## ○ ハバチ科の1種

長 野	南安曇郡奈川村	微害	カラマツ 5~40年	面積 本数 30ha 24千本	6.20	南安曇地方事務所 A g.	斉藤 利隆
-----	---------	----	---------------	--------------------------	------	------------------	-------

## ○ マツノキハバチ

山 形	飽海郡遊佐町	微害	クロマツ 5 年	面積 本数 — 4 本	6.19	飽海地方事務所 A g.	布施 英夫
-----	--------	----	-------------	----------------------	------	-----------------	-------

## ○ クリタマバチ

宮 城	宮城郡宮城村 (青森局仙台署)	中害	ク リ —	面積 本数 1,500ha 15千本	5.30	仙台管林署	
秋 田	南秋田郡五城目町	激害	ク リ 15~30年	面積 本数 3.0ha 4千本	7.2	秋田林業事務所	深沢長之助

## ○ クスギズイフシタマバチ

和歌山	西牟婁郡中辺路町		ク ス ギ 5 年	面積 本数 0.2ha 600本	5.30	県林試	岡田 S P
-----	----------	--	--------------	---------------------------	------	-----	--------

## ○ スギタマバチ

岡 山	英田郡東粟倉村		ス ギ —	面積 — 22ha	6.29	大原町 A g.	神田 卓一
長 崎	福江市	中害	ス ギ 20 年	面積 本数 1.5ha 800本	6.11	諫早市	総合農林センター
	南高来郡小浜町	微害	ス ギ 20 年	面積 本数 1.3ha 2千本	8.7	〃	
熊 本	本渡市		ス ギ 4~30年	面積 本数 200.0ha 600千本	6.20	県天草事務所	新井 英雄
	牛深市	中害	ス ギ 1~10年	面積 本数 20ha 65千本	6.10	牛深駐在 A g.	増田 一人
	天草郡苓北町, 有明町, 倉岳町, 松島町, 新和町, 天草町, 河浦町, 五和町, 檜本村	中害	ス ギ 3~50年	面積 本数 525.9ha 1,695.6千本	6.23~ 7.26	町田森林組合, 松本文四 岩野典太, 井上 潔, 田中佐与次, 小川文吉 中川幸俊, 野田信敏	
宮 崎	串間市	中害	ス ギ 2~20年	面積 本数 100ha 125千本	7.12	串間市	田代 緑
	日向市	中害	ス ギ 5~30年	面積 本数 41.9ha 94.3千本	4.1	日向市 A g.	東元 信良 日高 美義
	東臼杵郡椎葉村		ス ギ 3~10年	面積 本数 51ha 138千本	7.10~ 7.15	A g.	井上 幸盛
	北諸県郡高崎町		ス ギ 2~30年	面積 本数 95ha 276.4千本	7.14~ 8.5	高崎町	鶴田 栄進

## ○ マツバノタマバエ

発生 の 場所		被害 程度	樹 林 種 類	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
岐 卓 長 崎	加茂郡白川町	中害	マ ツ 10 年	面積 1ha 本数 150本	7.25	白川町	黒川森林組合 総合農林センター
	諫早市	微害	アカマツ 8～15年	面積 2.0ha 本数 7千本	7.21	諫早市	
	福江市	激害	アカマツ 4～15年	面積 2.0ha 本数 7千本	6.11	〃	
	南松浦郡若松町, 岐宿町	激害	クロマツ 5～10年	面積 4ha 本数 15千本	6.10～ 6.16	〃	
	北高来郡高来町		クロマツ アカマツ 4～15年	面積 20ha 本数 40千本	8.11	〃	

## ○ スギノハダニ

岩 手	釜石市	中害	ス ギ 5～10年	面積 50ha 本数 15千本	6.1	菊池 圭二 千葉 一男	中害 48ha, 微害 12ha
	陸前高田市		ス ギ 3～20年	面積 30.0ha 本数 —	7.18	陸前高田市役所 A g. 佐藤 安	
宮 城	石巻市	中害	ス ギ 3～10年	面積 23ha 本数 76千本	6 月	石巻農林事務所 A g. 芦田 栄一	
	河辺郡河辺町		ス ギ 3 年	面積 11ha 本数 30千本	7.20	秋田林業事務所 A g. 川越 富雄	
山 形	飽海郡平田村	微害	ス ギ 3 年	面積 0.4ha 本数 1.2千本	7.23	飽海地方林業事務所 川越 富雄	
	矢板市 (前橋局矢板署) 那須郡黒磯町		ス ギ 2～13年	面積 14.6ha 本数 46千本	7.13	矢板市 矢板営林署長	
千 葉	印旛郡富里村	中害	ス ギ 3～8年	面積 8.5ha 本数 27.3千本	7.20	県林政課 S P. 吉田 光男	
	岩船郡山北村	激害	ス ギ 3～15年	面積 80ha 本数 —	8.2	印旛農林事務所 築根 一	
新 潟	南蒲原郡下田村	中害	ス ギ 6 年	面積 0.3ha 本数 1,070本	8.4	岩船林業事務所 A g. 佐藤 定利	
	大野市	中害	ス ギ 4～6年	面積 6ha 本数 15千本	7.10	下田村 森町森林組合	
福 井	小浜市	激害	ス ギ 3～15年	面積 81.2ha 本数 233.6千本	6.27～ 7.7	岸名 豊純 乾	
	勝山市	中害	ス ギ 4 年	面積 0.9ha 本数 2.2千本	7.19	小浜駐在所 坂口 富男	
岐 卓	多治見市	激害	ス ギ 3～5年	面積 150ha 本数 450千本	7.20	県林務課 小原 明	
	益田郡金山町, 萩原町	中害	ス ギ 3 年	面積 5ha 本数 12.5千本	8.4	土岐県事務所 A g. 安藤 郁夫 林 良一	
岐 卓	加茂郡白川町	中害	ス ギ 2～7年	面積 160ha 本数 485千本	7 月	二村 昭	
	郡上郡八幡町	微害	ス ギ 4～10年	面積 20ha 本数 50千本	7.25	白川町 黒川森林組合	
愛 知	不破郡関ヶ原町, 赤坂町, 垂井町	激害	ス ギ 3～10年	面積 70ha 本数 220千本	5.15	八幡町 河合 好男	
	岡崎市	中害	ス ギ 4～15年	面積 60ha 本数 137.5千本	7.4～ 8.10	西濃県事務所林務課 関ヶ原駐在所 田中 力男	
岐 卓	北設楽郡設楽町, 東栄町, 富山村	中害	ス ギ 3～5年	面積 2ha 本数 6千本	7.10	西三河事務所 城田久二兄	
	北設楽郡設楽町 (名古屋局新城署) 東加茂郡旭村	微害	ス ギ 3～10年	面積 114ha 本数 273千本	7.16～ 8.1	山本秀雄, 今枝達雄 矢野隼成	
三 重	度会郡紀勢町, 南島町	中害	ス ギ 1～5年	面積 1.59ha 本数 7.8千本	8.10	豊邦担当区 椎名 甚二	
	員弁郡北勢町, 藤原村	激害	ス ギ 4～10年	面積 16.6ha 本数 —	7.25	成本 正次	
三 重	亀山市	微害	ス ギ 3 年	面積 0.34ha 本数 1千本	7.6～ 7.12	亀山市 安田 秀一	
	鈴鹿市		ス ギ 6 年	面積 0.2ha 本数 9千本	7.30	四日市林業事務所 出浦 長郎 金沢 啓三 田中 幹二	
三 重	度会郡紀勢町, 南島町	中害	ス ギ 2～7年	面積 5.8ha 本数 27.5千本	7.31	田中 幹二	
	員弁郡北勢町, 藤原村		激害	ス ギ 4～5年	面積 1.9ha 本数 7.2千本	6.20	北勢町役場 岡 勇

発生 の 場所		被害程度	樹種 種 齢	被害数量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
滋 賀	伊香郡木之本町, 西浅井村 東浅井郡虎姫村	激害	ス ギ	面積 38.2ha	7.10~	松本 欣也 国友 善造	
			5~10年	本数 70.5千本	7.16		
京 都	京都市 舞鶴市 亀岡市 福知山市 綾部市 天田郡夜久野町, 三和町 加佐郡大江町 北桑田郡美山町 綴喜郡田辺町, 宇治田原町 綴喜郡井手町, 宇治田原町 (大阪局奈良署) 船井郡丹波町, 瑞 穂町, 園部町, 日 吉町	激害	ス ギ	面積 2.75ha	7.20	長浜県事務所 松本 欣也 京都林務出張所 A g. 橋詰 良, 岡本 昭 長野猛, 土井, 伊藤 神社 技師 府亀岡事務所 松原 亘 谷口春次, 杉山万治 大槻美, 星野光生, 尾池 和作, 神社三之助, 田中 山口 剛 梶村一郎, 衣川尹久 下夜久野森林組合 福知山市 藤田 信一 美山町 仲江和二郎 山中 普 塩田 勝栄 谷口文夫, 庄分義雄 寺村政次郎	
			ス ギ	面積 7.9千本	7.25		
			ス ギ	面積 2ha	8.3		
			ス ギ	本数 8千本	7.6~		
			ス ギ	面積 120ha	7.17		
			ス ギ	本数 344千本	7.25		
			ス ギ	面積 50ha	7.5~		
			ス ギ	本数 200千本	7.30		
			ス ギ	面積 110ha	8.7		
			ス ギ	本数 184.5千本	6.13~		
			ス ギ	面積 5ha	7.2		
			ス ギ	本数 17.5千本	5.20		
ス ギ	面積 60ha	7.10					
ス ギ	本数 107.5千本	7.6~					
ス ギ	面積 40ha	7.16					
ス ギ	本数 88千本	7.10					
ス ギ	面積 0.05ha	7.28					
ス ギ	本数 5千本	5.7~					
ス ギ	面積 9ha	7.25					
ス ギ	本数 17千本	7.13~					
ス ギ	面積 40ha	8.3					
ス ギ	本数 1,560千本	6.19~					
ス ギ	面積 10.5ha	7.26					
ス ギ	本数 323千本	7.26					
兵 庫	神戸市 宍粟郡千種町 周吉郡西郷町 玉野市 津山市 久米郡久米町, 旭町 苫田郡奥津町, 加茂町, 鏡野町 富村, 阿波村 英田郡東粟倉村 勝田郡勝田町 川上郡備中町 真庭郡落合町 高田郡高宮町 (大阪局三次署) 神石郡油木町 海部郡日和佐町 名西郡神山町 伊万里市 鳥栖市	中害	ス ギ	面積 5.5ha	7.20	神戸林務出張所 A g. 立道 従三 千種町役場 A g. 船曳 好市 隠岐支庁 安達 健児 玉野林務駐在所 A g. 生口 澄雄 津山西部担当 A g. 森 定淳 A g. 光井 技師 A g. 安東 健一 山林八郎, 福田通郎 半田茂樹, 齊藤八郎 綱沢 茂, 岸本 大原町 A g. 神田 卓一 美作農林事務所 A g. 永幡 圭男 第8森林区 美旗 正 落合町 A g. 山 敏之 川根担当区 津田 知明 油木町 A g. 塚橋 哲夫 日和佐町 神山町 細井 勇 伊万里市 波多津森林組合長 鳥栖市役所 中元寺朝雄	
			ス ギ	本数 22千本	6.30		
			ス ギ	面積 50ha	7.23		
			ス ギ	本数 150千本	7.12		
			ス ギ	面積 7ha	7.24		
			ス ギ	本数 15千本	7.13~		
			ス ギ	面積 1.0ha	8.3		
			ス ギ	本数 3千本	6.19~		
			ス ギ	面積 2.5ha	7.26		
			ス ギ	本数 8千本	7.26		
			ス ギ	面積 3ha	7.26		
			ス ギ	本数 10.6千本	7.26		
ス ギ	面積 24.5ha	7.26					
ス ギ	本数 77.7千本	7.26					
ス ギ	面積 0.6ha	7.26					
ス ギ	本数 2.1千本	7.6					
ス ギ	面積 10ha	6.28					
ス ギ	本数 35千本	7.7					
ス ギ	面積 1.5ha	7.12					
ス ギ	本数 1.5千本	7.12					
ス ギ	面積 3ha	7.12					
ス ギ	本数 10千本	7.5					
ス ギ	面積 31.88ha	7.5					
ス ギ	面積 0.3ha	7.20					
ス ギ	本数 0.9千本	7.25					
ス ギ	面積 15ha	7.25					
ス ギ	本数 40千本	7.5					
ス ギ	面積 20ha	7.5					
ス ギ	本数 60千本	6月					
ス ギ	面積 18ha	7.20					
ス ギ	本数 50千本	7.20					
ス ギ	面積 2.8ha	7.20					
ス ギ	本数 11千本	7.20					

発生 の 場所		被害程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
熊 本	多久市	中害	ス ギ 2～10年	面積 24.53ha 本数 85.9千本	7.31	多久市	池田 保 昇 勇
	杵島郡有明町, 北方町		ス ギ 2～10年	面積 20.2ha 本数 30.6千本	6.20～ 7.20		川崎 外尾 松本 康次
	西松浦郡有田町, 西有田村	中害	ス ギ 3年	面積 0.7ha 本数 2.8千本	7.18～ 7.24	有田町長 西有田村長	松本 康次 松尾 文次
	神埼郡背振村	中害	ス ギ 2～8年	面積 60ha 本数 210千本	5.30～ 6.10	背振村長	内村 葉
	三養基郡基山町	激害	ス ギ 5～10年	面積 7ha 本数 25千本	7.12	基山町役場	天本 和来
	水俣市		ス ギ 2～15年	面積 20ha 本数 60千本	7.13	水俣市 A g.	浮池 謹吾
	牛深市	微害	ス ギ 1～10年	面積 10ha 本数 30千本	5.10	牛深駐在	増田 一人
	芦北郡芦北町, 湯浦町, 田浦町, 津奈木村		ス ギ 2～15年	面積 70ha 本数 210千本	7.9～ 7.11		天野 俊明 馬場 莊
	天草郡有明町	中害	ス ギ 1～10年	面積 360ha 本数 190千本	5.10～ 5.15	A g.	中川 幸敏 高園 康雄
	大 分	日高郡栄村		ス ギ 6～13年	面積 13ha 本数 40千本	7.15	A g.
宮 崎	宇佐郡院内町	激害	ス ギ 面積 18.3ha 本数 64千本	7.19	院内町	加賀田哲夫	
	宮崎市	中害	ス ギ 5～8年	面積 5.2ha 本数 16千本	5.10	第15森林区 A g.	東広 信良
	串間市	中害	ス ギ 2～8年	面積 10ha 本数 13千本	7.13	串間市	田代 緑
	日南市	中害	ス ギ 3～10年	面積 150ha 本数 200千本	7.15	日南市	岡田 利秋
	西都市	激害	ス ギ 3～10年	面積 205ha 本数 441.5千本	7.5～ 7.20	A g.	春成 由朗 原 礼三
	南那珂郡北郷町, 南郷町		ス ギ 1～11年	面積 147.8ha 本数 210千本	7.17～ 7.20		川崎 良賢 松吉
	児湯郡西米良村		ス ギ 2～13年	面積 164.4ha 本数 429.5千本	7.9～ 7.27	A g. A g.	長友 君 日高 美義
	東臼杵郡北郷村	微害	ス ギ 3～5年	面積 0.5ha 本数 1.5千本	7.2	第11森林区	森 文雄
	西臼杵郡五ヶ瀬町		ス ギ 2～20年	面積 50ha 本数 125千本	8.4	第9森林区 A g.	重山 良貞
	鹿 児 島	指宿市		ス ギ 2～15年	面積 23.1ha 本数 62.8千本	7月	指宿農林出張所
鹿屋市	激害	ス ギ 3～10年	面積 6ha 本数 16.5千本	7.25	鹿屋農林出張所	下園 一熊	
肝属郡田代町, 根占町, 大根占町 串良町, 佐多町 高山町, 吾平町 始良郡横川町	激害	ス ギ —	面積 112ha 本数 293千本	7.20～ 7.29		下園一熊, 手塚昭雄 岩元光明, 前田義行 浜田 登	
	激害	ス ギ 1～5年	面積 5ha 本数 14千本	7.5	横川町	吉井 勝男	

## ○ マツヤドリハダニ

岐 阜	土岐市	クロマツ アカマツ 3～10年	面積 290ha 本数 348千本	6.5	県土岐事務所 A g.	山内 丑郎	激害50ha, 中害50ha, 微 害190ha
	多治見市	アカマツ クロマツ 3～10年	面積 590ha 本数 595千本	6.5	県土岐事務所 A g.	安藤 郁夫	

(258)

○ カラマツの先枯病 ○ カラマツオオアブラムシ

発生の場所	被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
北海道 常呂郡常呂町 (北見局北見署)	中害	カラマツ 2～3年	面積 27.45ha 本数 268千本	7.21	常呂町 森口 尚司	

○ カラマツイトヒキハマキ ○ マイマイガ ○ カラマツアカハバチ

長野 南安曇郡穂高町 (長野局松本署)	微害	カラマツ 26～136年	面積 80ha 本数 122千本	6.22	穂高町 山田英三郎	
------------------------	----	-----------------	---------------------	------	--------------	--

○ マツカレハ ○ マイマイガ

長野 小県郡東部町	激害	カラマツ 1～83年	面積 20ha 本数 17千本	7.16	上田担当区 林 治男	
-----------	----	---------------	--------------------	------	---------------	--

○ キイロコキクイムシ ○ マツノコキクイムシ

三重 度会郡南島町	激害	クロマツ 100～300年	面積 — 本数 2本	7.30	南島町 A g. 田中 幹二	
-----------	----	------------------	---------------	------	-------------------	--

○ スギのみぞ腐病 ○ ヒメスギカミキリ

京都 京都市	中害	スギ 35年	面積 1.3ha 本数 800本	7.10	S P. 安村亜雄, A g. 村上京一, A g. 橋詰良彦	
--------	----	-----------	---------------------	------	---------------------------------	--

○ クリオオアブラムシ ○ ヒメビロウドコガネ

鳥取 岩美郡福部村	微害	クリ 2年	面積 0.9ha 本数 200本	7.16	鳥取地方農林振興局 A g. 伊田 範愛	
-----------	----	----------	---------------------	------	-------------------------	--

○ クリオオアブラムシ ○ ツマグロオオヨコバイ ○ トビサルハムシ

鳥取 岩美郡福部村	中害	クリ 2年	面積 0.9ha 本数 200本	5.19	鳥取地方農林振興局 A g. 伊田 範愛	
-----------	----	----------	---------------------	------	-------------------------	--

○ クスサン ○ マイマイガ ○ チャイロコガネ ○ カシワクチブトゾウムシ

鳥取 岩美郡福部村	中害	クリ 2年	面積 0.91ha 本数 200本	5.9	〃	
-----------	----	----------	----------------------	-----	---	--

○ キイロコキクイムシ ○ マツノキクイムシ

岡山 御津郡加茂川町 (大阪局岡山署)		アカマツ 97年	面積 0.01ha 本数 6本	7.11	岡山署 円城担当区	
------------------------	--	-------------	--------------------	------	--------------	--

○ コツノマダラカミキリ ○ マツシラホシゾウムシ ○ マツノキクイムシ  
○ マツノコキクイムシ ○ キイロコキクイムシ

岡山 和気郡吉永町	中害	アカマツ 20～60年	面積 1.2ha 本数 600本	6.26	吉永町 A g. 田辺 大八	
-----------	----	----------------	---------------------	------	-------------------	--

○ マツノコキクイムシ ○ キイロコキクイムシ

山口 厚狭郡山陽町	激害	アカマツ 80年	本数 1本 材積 1m <sup>3</sup>	7.17	山陽町 A g. 藤井 正一	
-----------	----	-------------	-----------------------------	------	-------------------	--

○ マツノマダラカミキリ ○ キイロコキクイムシ

山口 熊毛郡上関町	中害	クロマツ 10～40年	本数 320本 材積 65m <sup>3</sup>	8.17	平生町 A g. 今村 市弥	
-----------	----	----------------	--------------------------------	------	-------------------	--



## ○ マツノシラホシゾウムシ ○ キイロコキクイムシ

発生の場所	被害程度	樹林種 種 齢	被害数量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
山口 豊浦郡豊田町	微害	アカマツ 50 年	本数 材積 3本 3.8m <sup>3</sup>	8.7	豊田林業事務所 吉村 好行	

## ○ マツの葉ふるい病 ○ スギハムシ

香川 綾歌郡綾南町	中害	クロマツ 5～6年	面積 本数 1.2ha 4千本	8.6	大川町 豊田 基	
-----------	----	--------------	-----------------------	-----	-------------	--

## ○ マツノシラホシゾウムシ ○ キイロコキクイムシ

佐賀 多久市	激害	アカマツ 50 年	面積 材積 0.03ha 1.2m <sup>3</sup>	7.20	多久市 瀬戸口末次	
--------	----	--------------	--------------------------------------	------	--------------	--

## ○ サビカミキリ ○ マツノシラホシゾウムシ

宮崎 東臼杵郡諸塚村	激害	アカマツ 40 年	本数 材積 1本 0.5m <sup>3</sup>	7.25	諸塚村 A g. 石川 忠雄	
------------	----	--------------	----------------------------------	------	----------------------	--

## ○ マツカレハ ○ 松くい虫

宮崎 宮崎市		クロマツ 6～20年	面積 材積 24.7ha 30m <sup>3</sup>	8.4～ 8.10	県林政課 中村喜久弥	
--------	--	---------------	-------------------------------------	--------------	---------------	--

## ○ ヒメコガネ ○ スジコガネ

鹿児島 西之表市		クロマツ 3～15年	面積 本数 10ha 50千本	7.10	熊毛支庁 前田 宗倫	
----------	--	---------------	-----------------------	------	---------------	--

## 獣 害

## ○ ノネズミ

群馬 藤岡市		アカマツ 5 年	面積 本数 0.5ha 600本	7.22	藤岡林業事務所 A g. 日野友次郎	
山梨 富士吉田市	中害	アカマツ クロマツ 2～8年	面積 本数 42.0ha 1,211千本	5.2	富士吉田市 吉田林業事務所	
静岡 南都留郡河口湖町 足和田村, 忍野村 中野村, 鳴沢村, 勝山村 吉原市	激害	アカマツ カラマツ 2～9年	面積 本数 1,040ha 2,224千本	5.1	〃	
岡山 富士宮市	微害	スギ ヒノキ 1～12年	面積 本数 497.6ha 1,460千本	7.15～ 7.20	沼津林業事務所 芹沢 春男	
岡山 久米郡旭町	中害	ヒノキ 2～4年	面積 本数 2.2ha 0.3ha 0.6千本	7.20 7.13	沼津林業事務所 旭町 佐野 芳雄 光井 琢磨	
熊本 菊池市	中害	マツ 3～6年	面積 本数 100ha 400千本	7.17	菊池市 A g. 兼田 郁男	
大分 玖珠郡玖珠町, 九重町	激害	スギ, ヒノ キ, マツ 2～5年	面積 本数 20ha 23千本	6 月	玖珠農林事務所 樋口 勝人	

## ○ ノウサギ

埼玉 秩父郡大滝村	中害	スギ 3 年	面積 本数 0.3ha 1千本	7.14	秩父農林事務所 豊田 佐平	
京都 船井郡日吉町, 瑞穂町	中害	スギ ヒノキ 3 年	面積 本数 3.95ha 6.6千本	7.18～ 7.23	胡麻郷森林組合 田中慶郎, 岡花照夫	

## ○ シカ

京都 北桑田郡京北町	中害	ヒノキ 3 年	面積 本数 0.6ha 1.5千本	7.16	京北事務所 伊藤 武	
------------	----	------------	-------------------------	------	---------------	--